

**令和5年度**

**全国公共図書館研究集会**

**(サービス部門 総合・経営部門)**

**実施報告書**

# 目次

開催要項 .....	2
主催者挨拶 .....	4
近畿公共図書館協議会会長      吉本 馨（大阪府立中央図書館長）	
和歌山県公共図書館協会会長      歌 保晴（和歌山県立図書館長）	
基調講演 .....	5
「図書館はSDGsへの取り組みにどのような貢献ができるか」	
明治大学文学部 専任教授 青柳 英治 氏	
事例発表① .....	21
「SDGsと『知識創造型図書館』－大阪市立図書館の取り組み－」	
大阪市立中央図書館 利用サービス担当係長 上田 優里 氏	
事例発表② .....	29
「『真庭ライフスタイル』と図書館－真庭市立図書館の取り組み－」	
真庭市立中央図書館 参事 上杉 朋子 氏	
事例発表③ .....	34
「絵本でSDGs 絵本で世界とつながろう～絵本を使ってできること～」	
絵本でSDGs推進協会 代表理事 朝日 仁美 氏	
研究協議 .....	40
司会・コーディネーター      青柳 英治 氏（明治大学文学部）	
パネリスト                      上田 優里 氏（大阪市立中央図書館）	
上杉 朋子 氏（真庭市立中央図書館）	
朝日 仁美 氏（絵本でSDGs推進協会）	
情勢報告 .....	52
公益社団法人日本図書館協会 理事会 植松 貞夫 氏	
アンケート集計結果 .....	58

**令和5年度**  
**全国公共図書館研究集会（サービス部門 総合・経営部門）**  
**兼近畿公共図書館協議会研究集会・和歌山県公共図書館協会研修会**

**開催要項**

- 1 研究主題 「図書館とSDGs—図書館ができる持続可能な取り組み—」
  
- 2 趣旨  
2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」が目標達成とする2030年まで折り返し地点を迎えました。近年、世界中でSDGsへの取り組みが行われる中、知識や情報の拠点となる図書館も重要な役割を担うことが求められています。  
今回の研究集会では図書館がその役割を果たすことでSDGsにどのように貢献できるか、SDGsの背景や課題について改めて学び、さらに具体的な取組事例を通して、私たち図書館員一人ひとりが様々な課題に対する意識を高め、今後より良い図書館サービスを提供する契機にしたいと思います。
  
- 3 主催 公益社団法人日本図書館協会公共図書館部会  
近畿公共図書館協議会  
和歌山県公共図書館協会
  
- 4 主管 和歌山県立図書館
  
- 5 後援 和歌山県教育委員会
  
- 6 対象 全国の公共図書館及び関係機関の職員、学校及び教育委員会の関係者、図書館活動の関係者並びに図書館に関心のある方
  
- 7 期日 令和5年11月9日（木曜日）・10日（金曜日）

8 日程

第1日目 11月9日（木）

12:30	13:00	13:20	14:50	15:00	17:00
受付	開会	(1)基調講演	休憩	(2)事例発表 ①②③	

第2日目 11月10日(金)

9:30 11:00 11:10 11:50 12:00

(3) 研究協議	休憩	(4) 情勢報告	閉会
----------	----	----------	----

9 会場

ホテルアバローム紀の国 (3F 孔雀の間)

〒640-8262 和歌山県和歌山市湊通丁北2丁目1-2 TEL 073-436-1200

10 内容

(1) 基調講演 「図書館はSDGsへの取り組みにどのような貢献ができるか」

青柳 英治 氏 (明治大学文学部専任教授)

(2) 事例発表

①「SDGsと「知識創造型図書館」—大阪市立図書館の取り組み—」

上田 優里 氏 (大阪市立中央図書館 利用サービス担当係長)

②「「真庭ライフスタイル」と図書館—真庭市立図書館の取り組み—」

上杉 朋子 氏 (真庭市立中央図書館 参事)

③「絵本でSDGs 絵本で世界とつながろう～絵本を使ってできること～」

朝日 仁美 氏 (絵本でSDGs推進協会代表理事、絵本専門士、JPIC 読書アドバイザー、糸魚川市学校司書)

(3) 研究協議

司会・コーディネーター

青柳 英治 氏

パネリスト

上田 優里 氏

上杉 朋子 氏

朝日 仁美 氏

(4) 情勢報告

植松 貞夫 氏 (公益社団法人日本図書館協会 理事長)

### **主催者挨拶（近畿公共図書館協議会会長 吉本 馨）**

皆さま、こんにちは。私は近畿公共図書館協議会会長を務める大阪府中央図書館長の吉本でございます。研究集会の開会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

皆様におかれましては、平素より図書館活動にご尽力をいただいておりますこと、心より敬意を表します。また、本日はご多忙のところ遠方から当研究集会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

今回、先ほど司会の方からございましたが、全国公共図書館研究集会（サービス部門 総合・経営部門）、近畿公共図書館協議会研究集会、和歌山県公共図書館協会研修会と三つを兼ねた会となっております。

さて、今年5月より新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類感染症になり、私たちの日常は徐々に取り戻されてきました。しかしながら、感染は収束したわけではなく、インフルエンザの流行もございまして、図書館運営に関しましては、今までのような工夫、配慮が必要な場面もあり、引き続き気を緩めることなく図書館サービスの充実を図っていただきたいと考えております。

本研究集会のテーマは「図書館とSDGs－図書館ができる持続可能な取り組み－」でございます。図書館がSDGsにどのように貢献できるかについて、その目的、背景など改めて学び、具体的な取り組み事例を共有することで、より良い図書館サービスの提供につなげていきたいと考えております。2日間の研修となりますが、皆様にとって有意義な研修となることを願っております。

結びにあたり本日集まりの皆様のご健勝、ご活躍そして図書館界の発展を祈念しまして、開会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

### **主催者挨拶（和歌山県公共図書館協会会長 歌 保晴）**

みなさんこんにちは。和歌山県立図書館長の歌でございます。

本日は皆様方ご多忙の中、当研究集会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また講師の先生方も遠方より大任をお引き受けいただきまして感謝申し上げます。

緑の山、青の海、そして世界遺産に恵まれた和歌山県によろこそいらっしやいました。心より歓迎申し上げます。

本来であるならば、令和2年全国図書館大会和歌山大会がこの和歌山でこの会場そして隣に県民文化会館というのがありますが、そこで全国からたくさんの方々にお集まりいただいて、行う予定だったのですが、令和2年といえば、世界を席卷し始めた新型コロナウイルス感染症のためにどうしても現地開催はできないと、急遽オンライン開催に舵を切り替えたわけです。それから3年、こうして全国からたくさんの方々にぜひ和歌山に来ていただきたいという願いが今日こういう形で実現したことを、本当に嬉しく思っております。

さて、本研修会のテーマは図書館とSDGsということですが、正直言いますと私自身、SDGs？何？と少々わかりにくさを持っている部分もあったのです。今日と明日の講演や発表で、ああそういうことだったのか、これならうちでも使えるなという気付き・発見があれば、本研修または和歌山まで来ていただいた価値は十分にあると思っております。限られた時間ではありますが、本研修が実りあるものになりますように祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

## 基調講演

### 「図書館は SDGs への取り組みにどのような貢献ができるか」

明治大学文学部

専任教授 青柳 英治 氏

皆さんこんにちは。ただいまご紹介に預かりました、明治大学の青柳と申します。本日は「図書館は SDGs への取り組みにどのような貢献ができるか」と題してお話をさせていただきます。

アウトラインをこちらに示しました。1.はじめに、2.SDGs について、3.国際図書館連盟(IFLA)の取り組み、4.図書館における取り組み、5.図書館ができて得る貢献、6.SDGs への貢献評価-ポルトガルの実践、7.まとめです。この順序で話してまいります。

#### 1. はじめに

この講演では図書館が SDGs にどのように貢献できるのかを検討するきっかけを提示してまいります。

そのために、第一にSDGsの概要を確認します。第二に、国際図書館連盟の取り組みを紹介いたします。第三に国内外の図書館におけるSDGsへの取り組み事例をそれぞれ紹介し、整理してまいります。最後に図書館でのSDGsへの貢献を評価するための測定ツールを作成した国外の研究プロジェクトの内容を紹介してまいります。この講演を通して今後、図書館でSDGsについて取り組む際の参考にしていただければと思います。

#### 2. SDGs について

まず「SDGs とは何か？」を話してまいります。皆さんも耳にしたことがあるかと思いますが、SDGs とは、Sustainable Development Goals の略で、持続可能な開発目標のことです。2015年9



月に開催された国連の「持続可能な開発サミット」において「2030 アジェンダ」として採択された文書に掲載された一連の目標のことを言います。この「2030 アジェンダ」には前文、宣言に加えて持続可能な開発目標（SDGs）とターゲット他が記載されています。SDGs は厳密に言えばこの目標とターゲットのことを指すわけですが。本来 SDGs とは世界が 2030 年に達成すべき具体的な 17 の目標と 169 のターゲットで示した国連の文書です。

別途モニタリングのために 2016 年に国連統計局から 232 の指標が公表されました。SDGs は、抽象概念ではなく国連の 2030 グローバル・ゴールを指す固有名詞です。このように SDGs は、2015 年 9 月の国連持続可能な開発サミットにおいて採択された国連が主導するグローバルな取り組みであると言えます。あらゆる貧困に終止符を打つことを究極の目的として、2016 年から 2030 年までを対象期間としています。

SDGs には前身がありまして、それは 2000 年の国連「ミレニアムサミット」で採択された MDGs です。MDGs は Millennium Development Goals の略です。ミレニアム開発目標と呼ばれています。SDGs はこの後継にあたります。

2.SDGsについて 2.1 SDGsとは何か？ 1) 5

- SDGsの前身：2000年の国連「ミレニアムサミット」で採択されたMDGs。
- Millennium Development Goals：ミレニアム開発目標。SDGsはこの後継。

MDGs ミレニアム開発目標	項目	SDGs 持続可能な開発目標
2001～2015年	対象期間	2016～2030年
2000年 国連ミレニアムサミット	国連採択	2015年 国連持続可能な開発サミット
国連主導の貧困撲滅を究極の目的とするグローバルな取り組み	目的	「あらゆる形態の貧困に終止符を打つ」ことを目的とする行動計画
発展途上国	対象地域	先進国も含むグローバル
目標8、ターゲット21、指標60	構造	目標17、ターゲット169、指標232
グローバル指標を用いる	モニタリング	グローバル指標を用いる

こちらに示した表は、MDGsとSDGsを比較したものです。真ん中の列の項目を見ていただきたいのですが、対象期間からモニタリングまで、6つの項目を比較した形になっています。MDGsが発展途上国を対象としていたのに対して今回お話しするSDGsは先進国も対象に含めています。そして対象範囲も経済・社会・環境と幅広く、詳細な重要課題への対応を目指したグローバル・アジェンダである点に特徴があります。下から2つ目の「構造」については、この後に説明してまいります。

2.SDGsについて 2.1 SDGsとは何か？ 6

- 17の目標のアイコン<sup>2)</sup>はカラフルで一見わかりやすいため、SDGsは簡単なものにも思える。



こちらは17の目標になります。皆さんも、幾度となく目にされているのではないのでしょうか。この17の目標のアイコンは、ご覧のようにカラフルで一見わかりやすいため、SDGsは簡単なもののように思われるかもしれません。

しかし、169のターゲットのレベルまで踏み込んだ途端、少々ハードルが高いと感じる方も多いのではないのでしょうか？それはSDGsが持つ特徴によるためです。SDGsの特徴を4点示しました。

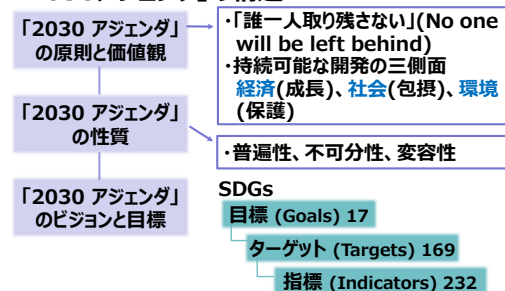
- ①空間軸。対象地域はグローバルと非常に幅広

いです。②時間軸。対象期間は先ほども示しましたが、向こう15年間で過去の人間活動をカバーし、長期に及んでいます。③専門領域。経済、社会、そして環境と広くかつ深い状況です。④主体。主体である国家から地域、企業、個人レベルまで多段階に渡っています。つまりSDGsの守備範囲は、日常個人が接している情報の範囲をはるかに超えています。そのため難しいと感じるのではないのでしょうか。

続いて「構造の確認」について話を進めてまいります。先ほど、SDGsは、2015年9月に開催されました、国連の「持続可能な開発サミット」において「2030アジェンダ」として採択された文書に掲載された一連の目標のこととお話しました。そこで、この「2030アジェンダ」の構造を説明したいと思います。

2.SDGsについて 2.2 構造の確認 1) 8

- 「2030アジェンダ」の構造



まず「2030アジェンダ」の原則と価値観ですが、重要な価値観として、こちら聞き覚えのある方が多いのではないかと思います。「誰一人取り残さない」このフレーズが記されています。これはMDGsから引き継がれた価値観で、農村やジェンダー、移民、障害者など、社会的格差や弱者への配慮が掲げられています。それから持続可能な開発の3つの側面として、経済（成長）、社会（包摂）、そして環境（保護）、この3つの要素を調和させることの重要性が書かれています。次に「2030アジェンダ」の性質ですが、すべての国の人々が行動すべき普遍性、それから先ほど

示した 17 の目標と相互に関係した総合的に取り組むべき不可分性、そしてゴールの変容性、この 3 つが特徴となっています。「2030 アジェンダ」のビジョンと目標ですが、2030 グローバル・ゴールとして目標、ターゲット、そして達成度を測る指標が設定されています。

SDGs は先ほど触れたように、三層構造となっています。17 の目標は先ほど説明しました SDGs のカラフルなアイコンのレベルが該当します。目標はテーマ、つまりグルーピングされた領域で、どちらかという抽象度が高くなっていると言えます。目標はより明確な 169 のターゲットにブレイクダウンされています。ターゲットごとに合計で 232 の指標が設定され、目標値や達成度をモニタリングできるようになっています。ターゲット・レベルまで踏み込んで課題を確認することが SDGs 戦略の選択と集中につながると考えられています。

2.SDGsについて 2.2 構造の確認 9

●SDGsの構造

目標 (Goals) 17

目標3 (すべての人に健康と福祉を) <sup>3)</sup>

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

ターゲット (Targets) 169

ターゲット3.6 2020年までに、世界の道路交通事故による死傷者を半減させる。

指標 (Indicators) 232

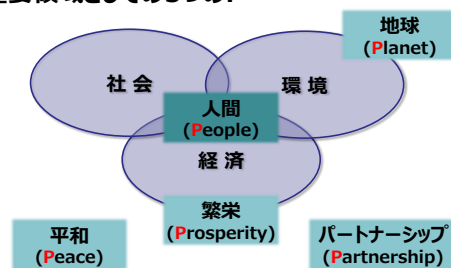
ターゲット3.6.1 道路交通事故による死亡率

例えば、目標 3 (全てのの人に健康と福祉を) では、「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。」と設定されています。しかし、内容の抽象度が高くてターゲット・レベルの次のような重点目標が見えづらい状況になっています。そこでターゲット 3.6 として、「2020 年までに世界の道路交通事故による死傷者を半減させる。」を設定し、自動車会社や保険会社などが貢献できるターゲットとなっています。ターゲットの達成度を測る指標として、道路交通事故の死亡率が挙げられています。

続いて「5つの重要領域」について話を進めてまいります。先ほど触れた 17 の目標は、持続可能な開発の 3 つの側面、すなわち、経済、社会および環境のもと 5 つの P の重要領域にカテゴライズできます。その 5 つの P をこれから示してまいります。

2.SDGsについて 2.3 5つの重要領域 10

●重要領域としての5つのP <sup>4)</sup>



(出所) 参考文献1, p.31.

ひとつ目は人間 (People) です。あらゆる形態および側面において貧困と飢餓に終止符を打つ、そして、すべての人間が尊厳と平等のもとに、そして健康な環境のもとに潜在能力を発揮できることを示しています。2 つ目の P は繁栄 (Prosperity) です。すべての人間が豊かで満たされた生活を享受できることを表しています。3 つ目の P は地球 (Planet) です。地球が現在および将来の世代の需要を支えることができるように、地球を破壊から守ることを意味しています。それから 4 つ目の P は平和 (Peace) です。恐怖および暴力から自由であり、平和的、公正かつ包摂的な社会を育んでいくことを示しています。最後に 5 つ目の P はパートナーシップ (Partnership) です。アジェンダの実現に必要な手段を、グローバル・パートナーシップを通じて動員することを表しています。この図で示したように、SDGs では人間が中心にあると考えられています。それではお話しした 5 つの P と 17 の目標との関係を見てみましょう。

17 ある目標によっては複数の P に関わるものもあるのですが、主たる関わりを見ますと、次のように分類できます。目標 1~6 は人間、目標 7~



11 は繁栄、目標 12～15 は地球、目標 16 は平和、そして目標 17 はパートナーシップです。特に今回のお話で、主に取り上げます目標について 5 つの P と目標との関係をマトリックス表で示したものがこちらになります。

✓ 2.SDGsについて 2.3 5つの重要領域<sup>1)</sup> 11

● 5つのPと17の目標との関係

- 目標1～6：人間、目標7～11：繁栄、目標12～15：地球、目標16：平和、目標17：パートナーシップ に分類可能。

	人間	繁栄	地球	平和	PS
3.すべての人に健康と福祉を	●	●			
4.質の高い教育をみんなに	●				
8.働きがいも経済成長も	●	●			
10.人や国の不平等をなくそう	●	●		●	
11.住み続けられるまちづくりを	●	●	●		

(出所) 参考文献1), p.31. 一部抜粋

例えば目標 3 (すべての人に健康と福祉を)、これは人間と繁栄に●が入っていますから、それらに関わっているという見方ができます。以降、同じように表を読み取ることができます。

続いて「日本の取り組み」について話を進めてまいります。「2030 アジェンダ」には、「我々はそれぞれの国が自国の経済・社会発展のための第一義的な責任を有することを認識する。」と記されています。しかし、この文言には法的な拘束力はありません。各国政府は当事者意識を持ってこの 17 の目標達成に向けた国内的枠組を確立することが期待されています。日本では、内閣に設置された SDGs 推進本部がその役割を担っています。2016 年に「持続可能な開発目標 (SDGs) 実施指針」が決定されました。その後、2019 年に改定され、また本年 2023 年にも改定が見込まれております。

「SDGs 実施指針」に基づいて 2030 年までに目標を達成するため、「SDGs アクションプラン 2023」を策定して優先課題 8 分野を掲げています。この「SDGs アクションプラン 2023」は、政府が行う具体的な施策や、その予算を整理して、各事業の実施による SDGs への貢献をいわば

「見える化」することを目的としているのです。末尾に 2023 とついていることからもお分かりのように、これまで数度改訂されてきました。この「SDGs アクションプラン 2023」は、「2030 アジェンダ」に掲げられている、先ほど説明した 5 つの P に基づいて、この表に示したように、次の 8 つの優先課題に重点的に取り組むとしています。

✓ 2.SDGsについて 2.4 日本の取り組み 13

● 「SDGs実施指針」に基づき、2030年までに目標を達成するため「SDGsアクションプラン2023」<sup>5)</sup>を策定し、優先課題8分野を掲げる。

人間	1 あらゆる人々が活躍する社会・ジェンダー平等の実現 2 健康・長寿の達成
繁栄	3 成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション 4 持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備
地球	5 省・再生可能エネルギー、防災・気候変動対策、循環型社会 6 生物多様性、森林、海洋等の環境の保全
平和	7 平和と安全・安心社会の実現
PS	8 SDGs 実施推進の体制と手段

(出所) 参考文献5)より作成

例えば 1 つ目の P「人間」については、「1 あらゆる人々が活躍する社会・ジェンダー平等の実現」と「2 健康・長寿の達成」。この 2 つの分野を掲げているという見方ができます。以降、他の 4 つの P についても同様にそれぞれ課題とする分野を掲げている状況です。

✓ 2.SDGsについて 2.4 日本の取り組み 14

● 「SDGsアクションプラン2023」とSDGsの目標の対比

		優先課題分野							
		1	2	3	4	5	6	7	8
SDGsの目標	3.健康		●				●		
	4.教育	●							
	8.働きがい	●		●					
	10.不平等	●							
	11.まちづくり			●	●				

(出所) 参考文献1), p.41. を参考に作成

こちらの表は「SDGs アクションプラン 2023」と SDGs の目標を対比したものです。例えば、SDGs の目標 4 (教育)、これを達成するために「SDGs アクションプラン 2023」の優先課題 1 「あらゆる人々が活躍する社会・ジェンダー平等の実現」に、重点的に取り組むことがわかります。他のいくつか挙げた SDGs の目標も同じような形で

読み取ることができます。

### 3. 国際図書館連盟の取り組み

これまでのお話で SDGs について理解を深めていただけたと思いますので、さらに図書館に寄せる形で話を進めていきます。国際図書館連盟（International Federation of Library Associations and Institutions : IFLA）は、書誌活動や情報サービス、図書館員の養成など図書館活動の全分野にわたって、国際的な規模での相互理解や協力、討議、さらに研究開発を推進することを目的として 1927 年に設立された団体です。世界各国の図書館協会や、図書館、教育研究機関を会員としています。そして、毎年各国持ち回りで、年次大会が開催されています。

IFLA は、SDGs の策定プロセスの段階から関与してきました。オープンワーキンググループ等に参加して、各国代表や他の関連団体と協議の上、文化や ICT、さらに情報へのアクセス、このような文言を盛り込むよう提言してきました。こうした運動は、目標 16（平和）のターゲットの一つとして結実しました。具体的にはターゲット 16.10「国内法規及び国際協定に従い、情報への公共アクセスを確保し、基本的自由を保障する。」この部分が該当すると言われています。このターゲットの中に「公共アクセス」とあります。これは public access の訳語ですが、少々わかりにくいかもしれません。言い換えますと、一般の人々が公的な情報へアクセスできることを保障するという趣旨です。

さらに、指標 16.10.2 として、「情報への公共アクセスを保障した憲法、法令、政策の実施を採択している国の数」となっています。この指標では、カウントの対象は国の数にとどまっています。そのため、先進国における図書館のさらなる発展を促す指標とまでにはなっていないのではないかという見

方もされています。

このほかの取り組みとして、マニュアルの公開があります。図書館が SDGs の達成にどのように貢献しているのかをストーリー化するためのマニュアルで、さらに取り組み事例の収集や公開も行われています。これは 2 つの方法で進められており、まず 1 つが冊子の刊行です。図書館が SDGs 全般にどのように貢献できるのかをまとめています。17 の目標すべてを対象にして、世界各国の図書館の取り組み例を示しています。この冊子は、日本語版が公開されていますので、ご興味のある方は、参照していただければと思います。

もう 1 つがウェブで取り組み事例を共有するものです。IFLA のウェブサイトのコンテンツのひとつに、各国の図書館協会や国立図書館から提供された統計等を参照できる“IFLA Library Map of the World”があります。この中に、各国の図書館が SDGs 関連の取り組みを投稿して共有できるコーナーである「SDG STORIES」を開設しています。35 カ国 57 件の事例投稿（2023 年 9 月 24 日現在）があります。

#### 3. 国際図書館連盟 (IFLA) の取り組み 18

②ウェブで取り組み事例を共有。各国の図書館がSDGs関連の取り組みを投稿し、共有できるコーナー「SDG STORIES」を開設。35か国57件の事例投稿あり(2023.9.24現在)<sup>10)</sup>。



(出所) “SDG STORIES” Library Map of the World <https://librarymap.ifla.org/stories> アクセス日: 2023.9.24

先ほど説明しましたマニュアルは、「SDG STORIES」への投稿を促すことを目的として作られたものです。こちらは「SDG STORIES」のトップ画面を示しています。ここから各国の事例に、アクセスできます。

先ほど説明しました冊子では、図書館が SDGs 全般にどのように貢献できるかを示していま

す。その内容を見てみたいと思います。「図書館と情報アクセスは持続可能な開発目標（SDGs）全般の成果向上に、以下を通じて貢献します」とあり、いくつか列挙されています。かなり具体的な内容となっています。ひとつ目は「専門のスタッフの支援の下、デジタル・メディア・情報リテラシー及びスキルを含む、すべての人のリテラシーを促進すること。」2 つ目は、「情報アクセスの格差を解消し、政府、市民社会及び企業が地域の情報ニーズへの理解を深められるよう支援すること。」さらに 3 つ目として、「政府の事業及びサービスについて配信するサイトのネットワークを提供すること。」4 つ目が「ICT へのアクセスの提供を通じてデジタルインクルージョンを進めること。」5 つ目が「研究・学術コミュニティの中心としての役割を果たすこと。」最後に「世界の文化及び遺産へのアクセスを維持し、提供すること。」です。図書館として、SDGs の成果向上のために、ここに挙げたような貢献ができる必要があることを示す内容になっています。

また先ほど説明した冊子の中には、SDGs の各目標における図書館の貢献例が載っています。その中から 5 つほど取り上げて示してみたいと思います。これから見ていく 5 つの目標は、比較的図書館との親和性があると思われるものを選んで紹介します。まず目標 3（すべての人に健康と福祉を）。「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。」この目標に対して図書館は「医学図書館、病院図書館及びその他の図書館は、公衆衛生の成果向上を支える医学研究へのアクセス提供者として欠かせない。」このような位置づけがなされています。そして、「すべての図書館における、健康に関する情報への公共アクセスは、自分自身（この自分自身というのは、図書館の利用者と捉えられます）の健康について、より十分な情報を得、健康を維持することに役立つ。」このような観点から貢献できると

いう捉え方がなされています。

目標 4（質の高い教育をみんなに）。「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。」この目標に対して「図書館は、世界中のあらゆる国において、小・中・高等学校と大学の中心である。」このように位置づけていて、その上で「図書館はリテラシープログラムを支援し、安全な学習スペースを提供し、研究者が新たな知識を創造するために研究とデータを再利用することをサポートする。」といった観点から貢献できるとしています。

目標 8（働きがいも経済成長も）。「包摂的かつ持続可能な経済成長およびすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（このような雇いをディーセント・ワークという言い方をします）を促進する。」この目標に対しては「図書館における ICT への公共アクセスと研修を利用して、人々（この人々も利用者と捉えられます）は仕事に応募できる。熟練した図書館員は、オンラインでの応募や補足資料を作ったり、利用者にふさわしい仕事を見つけたりすることに力を貸すことができる。」このような観点から貢献できるとされています。

それから目標 10（人や国の不平等をなくそう）。「各国内及び各国間の不平等を是正する。」この目標に対して図書館は、「情報への平等なアクセス、表現の自由、結社と集会の自由及びプライバシーは、個人の自立に重要である。」その前提のもとで、「図書館は、世界中の都市及び農村地域で、すべての人に開かれた安全な市民のためのスペースを提供することで、不平等の軽減に協力する。」との観点から貢献できるとされています。

最後になりますが、目標 11（住み続けられる街づくりを）。「包摂的で安全かつ強靱（レジリエントということ）で持続可能な都市及び人間居

住を実現する。」この目標に対しては、「図書館は、未来の世代のために、いかなる形式のものであれ、かけがえのない貴重な文書遺産を保護し、保存する重要な役割を担っている」と位置づけていて、さらに「文化は地域社会を強化し、包摂的で持続可能な都市開発を支える。」との観点から貢献できることを示しています。

#### 4. 図書館における取り組み

ここでは国外の 5 つの事例、国内の 6 つの事例を取り上げて紹介し、その後、それぞれの事例を整理してまいります。まず「国外の事例」について話をします。国外については、先ほどご紹介した、IFLA のウェブサイトのコンテンツの一つである“Library Map of the World”の中の「SGD STORIES」に投稿された事例の一部を紹介してまいります。

まずアルゼンチンでの取り組みです。関連する目標は「3 健康」「4 教育」「10 不平等」です。アルゼンチンでの取り組みは、図書館の識字率向上プロジェクトがロマ人コミュニティの社会的、市民的エンパワーメントにつながる「大人のための小学校」設置に結びついたという事例です。2013 年、マル・デル・プラタ市にあるグラディス・スミス図書館では、ロマ人の女性たちの小さなグループに読み書きを教える識字プロジェクトが開始されました。アルゼンチンでは、推定 30 万人のロマ人が住んでいて、その多くが社会的排除や差別を経験していると言われています。ロマ人とは国籍を持たない民族のことで、彼らの抱える社会的課題に、識字率の低さがありました。この図書館はロマ人コミュニティが人口の半分以上を占める地区にあり、コミュニティで活動経験のあるソーシャルワーカーと協力してこのプログラムを導入することになりました。その結果、読み書きの学習や教育・文化・司法・医療サービスなどの情報へのアクセスなどが可能にな

ったと言います。

2016 年にこのプログラムが、「アダルトスクール No.701」というプロジェクトに組み込まれて、大人のための小学校に発展しました。これによって参加者は初等教育の修了証書を取得する機会を得ることができるようになり、アルゼンチン社会へのロマ人コミュニティの包摂が始まりました。また図書館は、ロマ人の女性を対象に地域の個人や組織と協力して、地域のニーズに合わせたワークショップやアクティビティを提供するプログラムを拡充してきました。さらに図書館は市民の権利を中心とした情報ワークショップを提供することで、ロマ人コミュニティの市民意識の向上にも貢献したと言います。

次にフィリピンでの取り組みを紹介してまいります。関連する目標は「4 教育」「10 不平等」です。図書館のアウトリーチプログラムがストリートチルドレンに成長の機会を提供するという事例です。フィリピンでは、5 歳から 15 歳の子どものうち、学校に通っていない子どもは推定 285 万人いると言われています。こうした子どもたちはストリートチルドレンや先住民族の子どもなど、社会的に疎外されている状況にあるようです。フィリピン国立図書館（NLP）は 2017 年に非営利団体と共同で、もっとも弱い立場にあり、社会から疎外されている子どもたちを対象に、「ブックカート・プログラム」を提供しました。このプログラムは NLP に隣接する、学校に通っていない子どもたちのいわば「家」として機能している公園にいる彼らに対して、直接本や学習教材へのアクセスを提供するものでした。

また、このプログラムでは、絵本の読み聞かせや、アートやクラフトなどのアクティビティの提供によって、読書と学習の推進、正しい身だしなみや衛生などの指導の実施、さらに NGO との連携によって、食料や衛生キット、学習教材の配布も行っています。このプログラムにより、子どもたちは本や読書への

関心が高まって、学校に通うことにも興味を持つようになりました。さらに、言語能力と読解力が向上して学校環境に戻る際に役立ったと言います。

次にドイツでの取り組みについて見てまいります。関連する目標は「4 教育」「8 働きがい・経済成長」「10 不平等」「17 パートナースhip」です。ブレーメン市立図書館が、難民や新しい移民に将来に向けた研修の機会を提供するという事例です。2015 年の時点で、ブレーメン市では移民の背景を持つ人が人口の 28.0%を占めていて、公共サービス部門でこうした人を受け入れている（雇用している）割合は雇用者の約 13.0%、図書館での割合は 2.5%にとどまり、少ない状況でした。ブレーメン市は、難民認定を受けた人たちが職業資格（EQ）を取得できるようにプロジェクト「未来の訓練機会」を開発しました。EQ とは、難民認定を受けた人たちが語学レッスンや社会教育的な支援を受けられる入門レベルの資格です。ドイツの労働市場に溶け込むために不可欠なものという位置づけがなされています。この EQ の取得過程で難民などがブレーメン市の公的機関や民間企業で実習や訓練プログラムを受けられるのです。

2015 年、図書館は実習先としてこのプロジェクトに参加しました。図書館でのプログラムは、実習生は週 3 日図書館で働き、残りの 2 日、職業訓練校で必要な理論的知識やドイツ語を学ぶものでした。プログラムの修了者は、メディア・情報スペシャリストとして契約職員として図書館で働く機会が得られました。このプログラムは、EQ の取得を通して自身を向上させ、自身の能力を発揮する機会を与えてくれるプラットフォームの一つとなっていました。

次にオーストラリアでの取り組みを見てまいります。関連する目標は「3 健康」「4 教育」「11 まちづくり」「17 パートナースhip」です。世代をつなぐこ

とで、高齢者が図書館で技術スキルを身につけられるという事例です。ショールハイブ図書館では、高齢者の技術スキルを向上させ社会的孤立や孤独に対処するため、市役所や地元の高校と協力して 2017 年に「ジェン・コネクト」というプログラムを開始しました。ショールハイブ市は 5 世帯に 3 世帯（60.0%）に子供がおらず、そのうち半数は一人暮らしや夫婦で暮らす高齢者世帯であると言います。高齢者は一般に社会的孤立や孤独に陥ったり、あるいは、健康や生活の質に深刻な影響を受けたりしやすいです。そのため市議会はこうした人たちを対象にサービスの必要性を指摘しました。ショールハイブ市では、多くの行政サービスやコミュニティ情報が主にオンラインで利用可能となっていたのですが、高齢者はショールハイブ図書館で、技術にアクセスしてそれを利用するための支援を求めるようになりました。こうした背景から「ジェン・コネクト」というプログラムが生まれました。

このプログラムは、コミュニティ内の学生と高齢者とがペアになって、高齢者が学生からデジタル技術の支援を受けるものです。図書館の役割は高齢の利用者にプログラムを宣伝して、ニーズのある高齢者が学生とペアになる学習セッションをコーディネートするものでした。プログラムの成果は、若者はほとんど交流の機会がない地域の高齢者と関係を築くことができ、また高齢者は健康情報やレジャー、エンターテインメントといった情報にアクセスできるようになったことです。

最後にシンガポールでの取り組みを見てまいります。関連する目標は「8 働きがい・経済成長」「10 不平等」「11 まちづくり」「17 パートナースhip」です。図書館のデジタル化センターは、特別なニーズを持つ人たちにトレーニングと雇用の機会を提供するという事例です。国家図書館委員会（NLB）は、社会的包摂とあらゆる人の機会均

等を提唱する組織です。NLB では、自閉症リソースセンター（ARC）と提携して 2015 年に「デジタルサービスセンター」（DSC）を設立しました。そして、特別なニーズを持つ人たちに新たな学習と仕事の機会を提供しました。DSC では自閉症の人たちをデジタルサービスアシスタントとして雇用し、NLB の遺産コレクションから文書をデジタル化する業務を行いました。これによって、学術研究者や一般の市民はデジタルコンテンツを利用できる範囲が広がりました。

雇用に際して NLB と、ARC のジョブコーチとが密接に連携して体系的なトレーニングプログラムを立案することで、デジタルサービスアシスタントの仕事の成果が向上しました。このトレーニングプログラムは、デジタル化プロセスの範囲を達成可能なタスクに分解して自閉症の従業員の学習ニーズに合わせるものでした。デジタルサービスアシスタントは NLB で定期的に雇用されることで職場に溶け込むことができ、さらに地域社会に貢献できることに大きな自信を持つようになったと言います。

続いて「国内の事例」について話を進めてまいります。ここでは国内の取り組み事例として 6 つ紹介します。まず一つ目。関連する目標は「4 教育」です。山形県の大石田町では、公立図書館 4 館で構成する北村山図書館協議会の事業として「きたむらやまとしよかん 本の福袋」を実施しました。貸出するテーマは、各地域に根差した題材に加えて、例えば、「英国のエリザベス女王」や「戦争と平和」といった時事ニュースや世界の出来事に関わるテーマとし、その一つとして SDGs を設定しました。福袋は子供用と大人用の 2 種類あり、各館では、テーマに関わる図書 2 冊を 1 パッケージとして 50 セット用意しました。これにより地域の特徴や世界の出来事を知る機会を提供していると言います。

2 つ目は愛知県の豊橋市図書館の事例です。

関連する目標は「4 教育」です。この図書館では、外国人の子どもたちに本に親しんでもらうため、外国人が多く暮らす地域に図書館員が出向いて行き、タブレット端末で絵本のワークショップや読み聞かせをする事業を 2018 年度から続けています。豊橋市は名古屋市について県内で二番目に外国人が多い自治体のようです。そのため、市内の小学校に通う外国人の児童も 1000 人近くいます。市営住宅などで月に一度実施していて、図書館に馴染みのない国もあるので、そうした国の人たちの図書館の利用促進も目的としていると言います。

それから 3 つ目。関連する目標は「12 つくる責任・つかう責任」「14 海の豊かさ」です。石川県の金沢市立泉野図書館では NPO エコラボによる「マイボトル応援 SDGs フォーラム」を開催して、参加者は海洋プラスチックごみの削減や水資源の活用について意見を交わしました。その際に使い捨て容器ではなく水筒を持ち歩いてほしいという呼びかけも行ったようです。

それから 4 つ目。関連する目標は「5 ジェンダー平等」「9 産業と技術革新」です。新潟市立中央図書館では、にいがた NGO ネットワークと県の国際交流協会の主催による国際協力への理解を深めるセミナーが開かれました。ここではミャンマーで活動する NPO 法人の事務局長が軍事クーデター後の現地での木工品加工の技術研修や販売支援を通じた SDGs の実践例を紹介しています。さらに、地元の中等教育学校の部活動「グローバル部」の生徒たちが中央アジアのキルギスで社会問題となっている女性が誘拐され結婚させられる「誘拐婚」の再現劇を交え、世界との比較による日本のジェンダー格差を報告しています。

5 つ目になります。関連する目標は「8 働きがい・経済成長」です。大阪市立淀川図書館では、ハローワークと共催して仕事と子育ての両方を考

えている人を対象とした就職支援セミナー「図書館 de ハローワーク」を開催しました。乳幼児向けの絵本の読み聞かせなどの催しの後にハローワークの職員が施設の使い方を説明したと言います。

最後になります。関連する目標は「4 教育」 「17 パートナースhip」です。愛知県の大府市にあるおおぶ文化交流の杜図書館では、イベント「図書館から SDGs 実践中」を開催しました。名古屋市内の民放 5 局の合同プロジェクトの一環として、楽器の演奏に合わせ各局のアナウンサーが図書館の絵本を朗読して子どもたちの知的好奇心を育み言葉の大切さを伝えたということです。

## 5. 図書館ができ得る貢献

これまで、国内外の図書館における取り組み事例を紹介してまいりました。ここでは、国外と国内の取り組みをそれぞれ整理することで、図書館が SDGs にどのように貢献できるのかを考えるきっかけを提示してみたいと思います。まず、国外の事例を整理し跡づけることで日本での貢献に結びつけられるかどうかを、特に、連携・協力の視点から指摘します。

国外の図書館の事例から、SDGs への支援につながる貢献には、次の 4 つの視点が含まれていることがわかりました。すなわち、①地域の実情に基づき、②図書館が他機関と連携・共同することで、③各種プロジェクトやプログラム等を構築、あるいは開発して、それらを実施することで、④地域の課題解決の貢献につながるというものです。この 4 つの視点を先ほど紹介しました 5 つの事例にあてはめて整理してみます。

まずアルゼンチンの事例では、①識字率の低さが社会的課題となっていました。そこで②ソーシャルワーカーと協力して③識字プロジェクトを開始しました。その結果④各種情報へのアクセスが可能となり、市民意識の向上へとつながりました。それ

からフィリピンの事例では、①学校に通っていない子どもが推定 285 万人いる状況でした。そこで②非営利団体と共同で、③ブックカート・プログラムを提供しました。その結果、④読書と学習への関心が向上し、通学への興味も高まりました。ドイツの事例では、①ブレーメン市は移民の背景を持つ人が人口の 28.0%を占めていて、こうした人たちの雇用割合は低調でした。そこで②・③市が開発した職業資格の取得プロジェクトに図書館が実習の場を提供することで④能力向上の機会とメディア・情報スペシャリストとして図書館で働く機会を提供できました。

さらに、オーストラリアの事例では、①シヨールハイブンは子どもがいない世帯が 60.0%であり、うち半数が高齢世帯でした。そこで図書館は②市役所や地元の高校と協力し、③「ジェン・コネクト」プログラムを開始しました。図書館は学習セッションのコーディネートを担当しました。その結果、④若者は地域の高齢者と関係を構築することができ、また高齢者は情報へのアクセスが可能となりました。最後、シンガポールの事例では、①国立図書館委員会（NLB）は社会的包摂と万人の機会均等を目指して、②自閉症リソースセンター（ARC）と提携し、③デジタルサービスセンター（DSC）を設立しました。その結果④特別なニーズを持つ人たちに新たな学習と仕事の機会を提供できました。

これまで紹介した国外の取り組みを日本の図書館での貢献に結びつけるには、どのようなことが考えられるでしょうか。各国において市民に対し行政サービスを提供する仕組みや体制は、当然ながら日本の仕組みや体制とは異なるわけです。そのため、国外の取り組みを、そのまま日本に適用し実践するのは困難であろうと思われます。そこで、先ほど国外の事例について 4 つの視点をもとに整理した事柄を、管轄すると思われる日本の自治

体の部署を挙げることで、図書館とそれらの部署との連携・協力（コラボレーション）の可能性を指摘してみたいと思います。

まずアルゼンチンの事例では、先ほどお話しした4つの視点から読み取れた事柄をキーワードとして抽出してみました。以降の事例でも同様にキーワードを抽出します。アルゼンチンの事例のキーワードは、「識字率」「学校教育」「女性の機会均等」です。これらを管轄すると考えられる日本の自治体の部署には、あくまで一例ですが、教育委員会に置かれた小中高等学校の教育課程や教育にかかる専門的事項の指導助言などを行う「学習指導課」や、福祉関係の部署に置かれた男女共同参画社会の実現を目指した事業を展開する「男女共同参画センター」、あるいは経済・職業・家族といった日常生活を送るうえで起こる様々な問題を抱える女性からの相談を受け付ける「女性サポートセンター」などが挙げられます。

フィリピンの事例で抽出できたキーワードは、「学校教育」「生涯学習」「読書推進」さらに「子ども」です。これらを管轄すると考えられる日本の自治体の部署には、例えば先ほど挙げた「学習指導課」に加えて、生涯学習推進体制の整備や学習機会の充実、社会教育の振興、さらには読書活動の推進などを行う「生涯学習課」。このほかに福祉関係の部署に置かれた青少年の健全育成や青少年施設の管理を行う「子ども青少年課」などが挙げられます。

それからドイツの事例で抽出できたキーワードは、「外国人」「職業訓練・実習」です。これらを管轄すると考えられる日本の自治体の部署には、例えば、国際化に関わる部署に置かれた多文化共生意識の醸成や外国人住民の活躍の場をつくることに関わる「多文化共生推進課」や産業労働に関わる部署に置かれた技術や技能人材の育成、職業能力開発を進める「産業人材課」などが挙

げられます。

さらにオーストラリアの事例で抽出できたキーワードとしては、「高齢者」と「ICT スキル」が挙げられます。同じように、これらを管轄すると考えられる日本の自治体の部署には、一例ですが、福祉関係の部署に置かれた生活支援サービスの提供支援あるいは高齢者の社会参加活動への支援や地域での支え合いの推進を行う「高齢者福祉課」や、自治体 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進や教育の ICT 基盤技術に関わる「デジタルサービス課」などが挙げられます。

最後にシンガポールの事例で抽出できたキーワードは、「障がい者」や「ICT スキル」「就労支援」です。これらを管轄すると考えられる自治体の部署には、例えば、福祉関係の部署に置かれた障がい者の相談支援体制の整備や障がい者の就労支援などを進める「障害者福祉推進課」や、産業労働に関わる部署に置かれた障がい者の雇用促進を図るために企業や障がい者就労支援機関に向けた相談や支援、こうした機関等を対象に研修会を行う「障害者雇用促進センター」などが挙げられます。

続いて、国内の事例を整理して後づけることで、他の公立図書館での貢献に結びつけられるかどうかを、計画や企画の立案への関与のしかたから説明します。先ほど紹介した国内の事例から、SDGs への支援につながる貢献には、次の3つのパターンに整理して捉えられます。事例の説明は一部、先ほど述べた内容と若干繰り返しのところもありますが、概要を含めて説明します。

一つ目、図書館がサービスを直接利用者に提供するものです。このパターンには先ほどの事例の次の2つが当てはまります。まず、大石田町立図書館の事例です。この地域の公立図書館4館で構成される北村山図書館協議会で貸出テーマの一つに SDGs を設定して「本の福袋」という事



業を実施しました。次に豊橋市図書館の事例です。市営住宅など外国人が多く暮らす地域で、外国の子どもたちを対象に図書館員がタブレット端末を使って絵本のワークショップや読み聞かせを行いました。

2 つ目は司書のスキルや図書館が保有する資料や情報を使わずに、SDGs の取り組みについて理解を深めることを目的としたイベントやセミナー等に図書館という場所を提供するものです。このパターンには次の 2 つの事例が当てはまります。まず金沢市立泉野図書館の事例です。NPO 法人による「マイボトル応援フォーラム」を開催して、参加者は海洋プラスチックごみの削減や水資源の活用について意見交換しました。次に新潟市立中央図書館の事例です。NGO と県の国際交流協会が国際協力への理解を深めるセミナーを開催し、ミャンマーでの木工品加工の技術研修や販売支援の実践例の紹介、キルギスでの「誘拐婚」の問題をもとに日本のジェンダー格差について報告がなされました。

3 つ目は司書のスキルや図書館が保有する資料を使って、必要に応じて図書館以外の他機関と連携し、場所も図書館に限定することなく、イベント等を開催するものです。このパターンには、次の 2 つの事例が当てはまります。まず大阪市立淀川図書館の事例です。ハローワークと共催して、子育て世代を対象に「図書館でハローワーク」を開催し、乳幼児向けの絵本の読み聞かせを行った後、施設の使い方を説明しました。次におおぶ文化交流の杜図書館の事例です。イベント「図書館から SDGs 実践中」を開催し、名古屋市内の民放 5 局の合同プロジェクトの一環として、アナウンサーによる絵本の読み聞かせを行うことで、言葉の大切さを伝えました。

こうした事例から導き出された傾向として、次の 2 つのことが挙げられます。まずひとつは蔵書をもと

に、図書館による SDGs の 17 の目標を紹介したサービスやイベントを実施すること。もうひとつは他団体等と連携・協力した SDGs への取り組みを周知するためのイベントを開催することです。これらの実施・開催といった傾向が事例として見られました。今後は国外の図書館における取り組みを参考にしながら、先ほど示したような、地方公共団体の中の、他の部署との連携・協力も含めた SDGs への貢献につながる計画や企画（プログラム）の立案に関わっていくことが望まれるのではないかとこのことを指摘させていただきます。

その際、内閣府が進める SDGs を原動力とした地方創生である地方創生 SDGs の観点から、「SDGs 未来都市」や「自治体 SDGs モデル事業」の選定を受け、事業に取り組む中で図書館を位置づけて貢献していくことも考えられるのではないのでしょうか。皆さんご存知かと思いますが「SDGs 未来都市」とは、地方創生 SDGs の達成に向けて優れた SDGs の取り組みを提案する地方自治体を内閣府が選定するものです。もう一つの「自治体 SDGs モデル事業」は、SDGs 未来都市の中でも特に優れた先導的な取り組みを「自治体 SDGs モデル事業」として選定し、支援するものです。成功事例の普及を促進するという狙いが見受けられます。例えば 2021 年に「SDGs 未来都市」に選定された愛知県の小牧市では、中心市街地のにぎわい創出のために中央図書館の整備を挙げています。また、この後にお話を伺える大阪府は 2020 年、そして真庭市は 2018 年に、それぞれ「自治体 SDGs モデル事業」に選定されているようですので、そのあたりのお話も伺えるかもしれません。

## 6. SDGs への貢献評価-ポルトガルの実践

まず前提について見てまいります。世界が SDGs を目指す中で図書館情報サービス（LIS）

セクターは、重要なパートナーであり、積極的に貢献する必要があるとの捉え方がなされています。ステークホルダーからそのように認識されるために LIS セクターは SDGs への貢献に対する証拠を集めて、それらを評価することによって、図書館の役割を促進する必要があります。そして 2013 年以降、先ほどお話しした国際図書館連盟 (IFLA) は、世界の持続可能性に向けたアドボカシー活動を強化して持続可能性への貢献を評価するだけでなく、測定するための方法とツールを LIS コミュニティに提供する必要性を明確にしました。アドボカシーとは、辞書的には支持や唱道 (教えを説いて人を導くこと) という意味です。政治、経済、社会における制度やシステムに影響を与えることを目的とした活動をアドボカシー活動と言います。

こうした中でリスボン新大学の社会科学・人文学部の研究チームが、2016 年 11 月に研究プロジェクト「公共図書館と持続可能性：SDGs への貢献の証拠を集める」(プロジェクト PLS) を開始しました。このプロジェクト PLS の目的は、公共図書館の SDGs への貢献を評価するための枠組みを開発してポルトガルの公共図書館に適合させることでした。SDGs への貢献を実際に評価するにあたって、マッピングツールを用いて、SDGs の目標やポルトガルの優先事項との整合性を検討しています。

続いて「評価測定」について話をしてまいります。2030 アジェンダに向けた現在のポルトガルの戦略的優先事項 (具体的には先ほどお話しした SDGs の中の目標 4,5,9,10,13 をそのように位置づけています) と一致する SDGs の目標のうち、特にここでは目標 4 を取り上げ、ターゲット 4.4 に着目して、そのマッピングのプロセスを示すことで、SDGs への公共図書館の貢献をどのように評価し、測定するのかを示してまいります。マッピングのためのツールは次のような表として示すことができま

す。

6.SDGsへの貢献評価 -ポルトガルの実践 6.2 評価測定 52

● **目標4 (質の高い教育をみんなに)** すべての人に包括的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。

(表出典)注23),p.54. をもとに作成

ターゲット	指標	公共図書館の貢献の証拠を集める方法		
		変化の次元	方法の種類	指標/その他

ターゲット	指標
<b>4.4</b> 2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。	<b>4.4.1</b> ICTスキルを有する若者や成人の割合 (スキルのタイプ別)

項目としては「ターゲット」から「情報源」まで 6 つあります。左側 2 つは国連が提示した SDGs の目標ごとに設定した「ターゲット」と「指標」です。残りは「公共図書館の貢献の証拠を集める方法」と位置付けられ、具体的には「変化の次元」「方法の種類」「指標/その他」「情報源」の 4 つの項目からなります。この表は先ほど「構造の確認」のところでも説明しました目標、ターゲット、指標の階層を踏まえた形になっています。指標については、図書館の貢献を測定できるように修正がなされています。

ここでは、目標 4 を取り上げて、特にターゲット 4.4 のマッピングのプロセスを示してまいります。まず 4.4 の「ターゲット」と「指標」ですが、「ターゲット」は、「2030 年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる」となっています。このターゲットに対して設定された「指標」が「4.4.1 ICT スキルを有する若者や成人の割合をスキルのタイプ別に数値化する」となっています。ターゲット 4.4 に対する指標 4.4.1 について、先ほど少し触れた研究プロジェクトでは、特に公共図書館の教育とデジタル・インクルージョンへの貢献に着目し、それらに関する証拠を集めるための方法としては、4.4.1 の指標では対象とする範囲が狭すぎるとしています。すなわち ICT スキルに焦点を当てることによって、タ

ーゲットで言及された、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技術的、職業的スキルを含む関連スキルの部分を除外していると捉えていました。

6.SDGsへの貢献評価 – ポルトガルの実践 6.2 評価測定 53

(表出典) 注23), p.54.  
をもとに作成

公共図書館の貢献の証拠を集める方法			
変化の次元	方法の種類	指標/その他	情報源
教育 【能力】 【生涯学習への参加】 【デジタル・インクルージョン】	[テスト] [アンケート]	図書館で行われる ICT研修を受講し 基礎または基礎以上のスキルをもつ 16歳から74歳の割合 (スキル分野別、男女別)	INE proxy indicator 4.4.1 ISO 11620 DigComp and DESI

そこで公共図書館の貢献の証拠を集める方法として、「変化の次元」では「教育の中でも能力（コンピテンスのこと）や生涯学習への参加、さらにデジタル・インクルージョン」に着目しています。デジタル・インクルージョンとは、人の属性（具体的には人種、居住地域、所得など）に関わらず、誰もがあらゆるデジタル技術を安全かつ自由に活用できるようにすることを表しています。証拠を収集する「方法の種類」ですが、「テストやアンケート」を用いるとなっています。そうしたテストやアンケートで用いる「指標/その他」は、「図書館で行われる ICT 研修を受講し、基礎または基礎以上のスキルを持つ 16 歳から 74 歳の割合をスキル分野別と男女別」に算出するとなっています。この指標の「情報源」は、欧州委員会が 2013 年にデジタルコンピテンスをより普及させるために開発した枠組みである DigComp (the Digital Competence Framework for Citizens の略。市民のためのデジタル・コンピテンス・フレームワーク) の影響力の高まりを考慮しています。その上でポルトガル国立統計局 (INE) が策定した SDGs4.4.1 の代替指標をもとに作成されました。ちなみに代替指標は「16 歳から 74 歳で ICT に関連したタスクをこなせる人の割合をタスクの種類

別に年間で示す」というものです。このようなプロセスによって指標が作られています。またこのほかの「情報源」としては DESI (Digital Economy and Society Index の略で、デジタル経済・社会指数) といった指標も挙げられています。DESI は欧州委員会が策定する EU 加盟国のデジタル化の進展度を評価するための指標です。5 つの大項目から評価して国別にデジタル度が 0~100 で示されます。このような多様な情報源をもとに、図書館の指標が作られているのです。

ポルトガルの公共図書館における SDGs への貢献を評価するため、マッピングツールを用いた方法を説明してまいりました。ポルトガルは EU 加盟国ですから SDGs に対する公共図書館の貢献への証拠となる指標の作成にあたっては、先ほど触れたような DigComp や DESI を参照していました。また、ここで 2030 アジェンダと SDGs への貢献の証拠を示すことで公共図書館が果たし得る役割について認識を高めていることも把握していただけたのではないかと思います。

## 7. まとめ

この講演では、図書館が SDGs にどのように貢献できるのかを検討するひとつのきっかけにさせていただくために、まず SDGs とは何か、その概要、さらに日本での取り組みを確認しました。次に、IFLA での SDGs への取り組みを紹介しました。さらに国内外の図書館での貢献の事例をいくつか紹介し、それらを整理しました。その結果を元に、貢献でき得る可能性を指摘しました。最後に図書館における SDGs への貢献を評価するため、マッピングツールを作成したポルトガルの研究プロジェクトの実践も紹介しました。特に SDGs への取り組みを評価するマッピングツールについては、今後、図書館での事業を進めていくにあたり、参考にいただければ幸いに思います。今回のお話は以

下の文献をもとにしました。これで私からのお話を終わらせていただきます。長時間に渡りご清聴いただきありがとうございます。

## 参考文献

- ・松原恭司郎『図解ポケット SDGs がよくわかる本』秀和システム, 2019, p.10-13,26,28-33,40-41
- ・国際連合広報センター「SDGs のポスター・ロゴ・アイコンおよびガイドライン」[https://www.unic.or.jp/activities/economic\\_social\\_development/sustainable\\_development/2030agenda/sdgs\\_logo/](https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_logo/) アクセス日 : 2023.9.18
- ・総務省「JAPAN SDGs Action Platform」<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/statistics/goal17.html> アクセス日 : 2023.9.18
- ・国際連合「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ（外務省仮訳）」<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000101402.pdf> アクセス日 : 2023.9.18
- ・SDGs 推進本部「SDGs アクションプラン2023 : SDGs 達成に向け、未来を切り拓く」2023.3 [https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs\\_Action\\_Plan\\_2023.pdf](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_Action_Plan_2023.pdf) アクセス日 : 2023.9.18
- ・日本図書館情報学会用語辞典編集委員会『図書館情報学用語辞典第 5 版』丸善出版,2020,p.71-72.
- ・塩崎亮「国連の「持続可能な開発目標」(SDGs)と図書館」『聖学院大学総合研究所 NEWSLETTER』28(2),2018,p.28-33.
- ・ IFLA *Libraries and the Sustainable Development Goals: A Storytelling Manual*. 2018, 29p. <https://www.ifla.org/wp-content/uploads/2019/05/assets/hq/topics/libraries-development/documents/sdg-storytelling-manual.pdf> アクセス日 : 2023.9.18
- ・IFLA『すべての人にアクセスとチャンスを : 国連 2030 アジェンダに図書館はどう貢献するのか』(日本障害者リハビリテーション協会 仮訳) ,2017 [https://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/access/ifla/Japanese\\_Access\\_and\\_Opportunity\\_for\\_All.html](https://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/access/ifla/Japanese_Access_and_Opportunity_for_All.html) アクセス日 : 2023.9.18
- ・IFLA “SDG STORIES” *Library Map of the World*. <https://librarymap.ifla.org/stories> アクセス日 : 2023.9.18
- ・ Argentina. “Library’s Literacy Project Becomes a School for Adults Leading to Social and Civic Empowerment of the Roma Community,” *Library Map of the World*. <https://librarymap.ifla.org/stories/Argentina/LIBRARY%E2%80%99S-LITERACY-PROJECT-BECOMES-A-SCHOOL-FOR-ADULTS-LEADING-TO-SOCIAL-AND-CIVIC-EMPOWERMENT-OF-THE-ROMA-COMMUNITY/151> アクセス日 : 2023.9.18
- ・Philippines. “Library’s Outreach Programme Provides Growth Opportunities to Street Children,” *Library Map of the World*. <https://librarymap.ifla.org/stories/Philippines/LIBRARY%E2%80%99S-OUTREACH-PROGRAMME-PROVIDES-GROWTH-OPPORTUNITIES-TO-STREET-CHILDREN/177> アクセス日 : 2023.9.18
- ・Germany. “Stadtbibliothek Bremen Provides Future Training Opportunities for Refugees and Other Newcomers,” *Library Map of the World*. <https://librarymap.ifla.org/stories/Germany/STADTBIBLIOTHEK-BREMEN-PROVIDES-FUTURE-TRAINING-OPPORTUNITIES-FOR-REFUGEES-AND-OTHER-NEWCOMERS>

/167 アクセス日 : 2023.9.18

- Australia. "Connecting Generations to Build Technology Skills at the Library," *Library Map of the World*. <https://librarymap.ifla.org/stories/Australia/CONNECTING-GENERATIONS-TO-BUILD-TECHNOLOGY-SKILLS-AT-THE-LIBRARY/125> アクセス日 : 2023.9.18
- Singapore. "Library's Digitisation Centre Provides Training and Employment for People with Special Needs," *Library Map of the World*. <https://librarymap.ifla.org/stories/Singapore/LIBRARY%E2%80%99S-DIGITISATION-CENTRE-PROVIDES-TRAINING-AND-EMPLOYMENT-FOR-PEOPLE-WITH-SPECIAL-NEEDS/156> アクセス日 : 2023.9.18
- 「地域資源などをテーマに 2 冊づつ 北村山の 4 図書館」『山形新聞』朝刊,2023.1.5,p.18.
- 「質の高い教育をみんなに 豊橋市図書館 外国人児童らと絵本づくり」『中日新聞』朝刊（三河総合版）,2022.5.8,p.19.
- 「マイボトル活用や海洋プラ削減議論 泉野図書館でフォーラム」『北國新聞』朝刊,2023.2.19,p.29.
- 「SDGs の理解深めて 国際協力学ぶセミナー 中央図書館」『新潟日報』朝刊,2023.3.10,p.12.
- 大阪市立淀川図書館「図書館 de ハローワーク」[https://www.oml.city.osaka.lg.jp/?action=common\\_download\\_main&upload\\_id=23405](https://www.oml.city.osaka.lg.jp/?action=common_download_main&upload_id=23405) アクセス日 : 2023.9.18
- 「大府市 図書館 SDGs イベント 在名 5 局アナ 絵本を読み聞かせ」『電波新聞』朝刊,2022.8.31,p.11.
- 内閣官房,内閣府「地方創生 SDGs ・「環境未来都市」構想・広域連携 SDGs モデル事業」<https://www.chisou.go.jp/tiiki/kankyo/index.html> アクセス日 : 2023.9.27
- Pinto, L. G. and Ochôa, Paula "Public Libraries ' Contribution to Sustainable

Development Goals : Gathering Evidence and Evaluating Practices in Portugal" Hauke, Petra et al. eds. *Going Green: Implementing Sustainable Strategies in Libraries Around the World*. Walter de Gruyter GmbH, c2018, p.[44]-59.

## 事例発表①

### 「SDGs と「知識創造型図書館」

#### ー大阪市立図書館の取り組みー

大阪市立中央図書館

利用サービス担当係長 上田 優里 氏

こんにちは。大阪市立中央図書館の上田と申します。これから「SDGs と知識創造型図書館」と題しまして、大阪市立図書館の取り組みについてお話しさせていただきます。

簡単に自己紹介させていただきます。私はこれまで、大阪市立の複数の図書館や、図書のデータを作ったりする部署で勤務し、今年 4 月に中央図書館の 2 階閲覧室担当係長に着任しました。日々レファレンスなどの利用者対応や、2 階の配架資料に関わる業務の総括をしています。2 階閲覧室というのは、その配架資料から、中央図書館の中でも SDGs と親和性の高いところになります。これについては、後ほどお話しします。

本日はこのような順番でお話しします。まず大阪市立図書館のご紹介、そして SDGs 推進への取り組みですが、中央図書館の取り組み経緯、コロナ禍でもできることを、地域図書館の取り組み、そしてまとめです。

大阪市立図書館についてご紹介します。大阪市の 24 の区に分かれており、各区に一つずつ図書館があります。西区にあるのが中央図書館で、中央図書館以外の区の図書館を地域図書館と呼んでいます。中央図書館は約 232 万冊の図書を所蔵していて、地域図書館はそれぞれ規模に合わせて 6 万冊から 10 万冊を所蔵しています。また、図書館が遠い地区には自動車文庫が巡回しています。大阪市内全部で 103 箇所のステーションがあり、月 1 回 2 台の自動車文庫で回っています。

中央図書館と地域図書館は、毎日送車で



資料のやりとりを行っており、大阪市立図書館はこの 24 館と自動車文庫で情報と物流のネットワークを組み、一体的にサービスを提供しています。

昨年度の大阪市立図書館全体のサービス概況についてですが、個人登録者数は昨年度一年で全館合わせて約 33 万人で、中規模の自治体の総人口並みの登録者数となります。一日あたりの貸出冊数は、中央図書館は約 5,800 冊、地域図書館は 23 館で平均しますと一日 1,200 冊ですが、地域図書館の一番少ない館で約 400 冊、利用の多い館では約 2,100 冊と館の規模や区の人口などによっていろいろ、となっています。予約冊数・レファレンス件数・ホームページのアクセス数・入館者数は年々増加している状況で、中央図書館の一日の入館者数は、平均して約 3,000 人です。

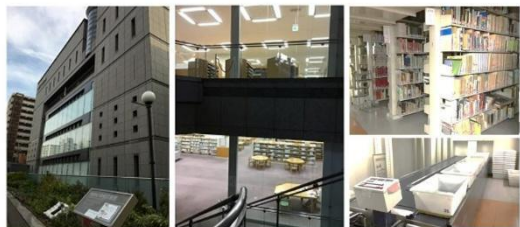
大阪市立図書館では、平成 18 年度から「いつでも、どこでも、だれもが、課題解決に必要な情報にアクセス可能な創造都市の知識・情報基盤である“知識創造型図書館”」を目指し、調査相談機能・情報提供サービスの高度化や、また、未来を担う子どもたちの心を育て、豊かな感性と創造力を育むため、子どもの読書活動を推進してまいりました。この「いつでも、どこでも、だれもが」は、SDGs の「誰一人取り残さない」という基本理念と合致しており、知識創造型図書館への歩みは、SDGs の目標 16 のターゲット 16.10「情報への公共アクセスを確保し、基本的自由を保障する」を推し進めるものです。

こちらが大阪市西区にある中央図書館です。

難波から地下鉄で2駅の西長堀駅に直結してい

1. 大阪市立図書館のご紹介

中央図書館 Osaka Metro 西長堀駅直結



図書 約232万冊所蔵 閲覧室 B1階から3階 書庫 地下6階から地下3階 蔵書の約7割が書庫に

ます。地上6階、地下6階建て、地下1階から3階までが閲覧室で、地下6階から地下3階までは書庫になっています。1階のエントランスはギャラリーになっていて、さまざまな関係機関との連携展示をしています。こちらに挙げましたのは、今年の連携展示の一部です。

1. 大阪市立図書館のご紹介

1階エントランスホールギャラリーでの展示



ユニセフ写真展「11の緊急事態」というのは、ユニセフでは今年特に11の国や地域における緊急事態への理解と支援を訴えておられるということで、子どもたちの現状を紹介する写真展を行いました。このユニセフ写真展は毎年テーマを変えて開催しており、もう10年続いています。「JICA 海外協力隊員の心に刺さった世界のことわざ言い伝え」展は、隊員の方々が異国の地で暮らす中で、心の支えになったことわざや言い伝えをご紹介しますパネル展示です。この JICA 関西との連携展示も毎年行っており、こちらも10年以上のお付き合いになります。エントランス展示に合わせて2階閲覧室でも、世界のことわざの本や

JICA 海外協力隊やボランティアに関する本を集めて展示をしました。

国立文楽劇場とも長いおつきあいで、図書館では文楽公演に合わせて関連の図書展示を行い、国立文楽劇場では当館の図書館カードを見せると1等席チケット代金が10%割引になるなどの連携を続けています。他にも大阪管区気象台との連携展示や、今年で100周年を迎えたオオサカ・シオン・ウインド・オーケストラの記念展示や、ここに挙げた以外にも、中央図書館は西区の図書館でもありますので、西区食育推進ネットワークの区内の保育園幼稚園での食育活動の様子の写真展など、地域との連携展示もしています。



こちらが2階閲覧室です。配架資料の分野は、分類0門から6門のうち、人文科学・社会科学・自然科学・技術・産業分野です。0問から6門の内でも分類37の教育学、59の家政学は1階に配架しています。閲覧室が4フロアに分かれているので、図書館に入っすぐの1階には児童書とティーンズコーナーと、そこに親和性の高い教育学と家政学、あと当日の新聞とポピュラー雑誌、中央図書館建て替え時の目玉の一つでもありました外国資料コーナーと言語8門を置いています。地下1階も地下鉄と直結して入りやすいので、障がい者サービスコーナーと、あと芸術やスポーツの7門、小説などの9門、CD・DVDのAVコーナー、漫画など、趣味やレクリエーションの資料を中心に地下1階に置いています。2階はそれ以外の一般書0門から6門の資料を配架し

ています。ちなみに 3 階は調査研究コーナー、参考図書類と、郷土資料コーナーになっています。

#### 1. 大阪市立図書館のご紹介

### 2階閲覧室の特色あるコーナー



2 階の配架資料のうちで特色あるコーナーが、こちらになります。防災コーナーについては、当館の目標にも「地域の防災・減災への取り組み支援」を掲げており、大阪管区気象台との連携事業も重ねる中で、阪神・淡路大震災から 25 年目となる 2020 年に開設しました。過去の災害の記録や、防災についての図書、自然災害のしくみの解説書のほか、市民防災マニュアルや、西区の水害ハザードマップ、防災マップなど、気象台や区役所に提供していただいたパンフレット類を設置しています。

がん情報ギフトコーナー、闘病記文庫ですが、闘病記については、もともと利用者からのお尋ねも多く、医療・健康支援に力を入れていく中で、2018 年 4 月に闘病記文庫を開設しました。がん情報ギフトコーナーは、国立がん研究センターの冊子「がん情報ギフト」を置いており、図書資料での情報提供を補完しています。このコーナーには他に、西区社会福祉協議会ご提供の認知症関連のパンフレットやチラシも見出しをつけて設置し、地域の支援ネットワークへのアクセスもお示しています。そのほか、人権図書コーナー、ビジネス書コーナーがあります。

当館では、各階の資料分野に関連する事業は基本的にその階の担当者が実施していて、こちらに挙げているのが 2 階の今年度の主な事業です。ビジネス講座は、「大阪を元気にしたい」という

ことで「元気塾」と名付けて、就労・起業などについての講座を各専門機関と連携して開催しています。今年も日本 FP 協会やハローワークから講師をお招きして全 5 回で開催しており、毎回担当司書が会場で関連図書のミニ展示もしています。「まちの保健室」は、地下 1 階の AV コーナーやまんがコーナーから近い「Hon+a! (ほな!)」スペースというところで開催しているのですが、共催の看護協会の方からは、「(当館での開催は)他ではあまり呼び込めない若い世代も来てくれる」と喜んでいただいています。

大阪管区気象台とも、防災講座や地域図書館での巡回展示などさまざまな連携事業を行っています。この「親子で学ぼう! 地震・津波へのそなえかた」は、夏休み期間に開催したコラボ講座で、担当司書が地震の絵本の読み聞かせや、会場での関連図書展示をして、気象台の職員の方からはクイズを交えての講座と、地震のしくみがわかる参加型の実験をしていただきました。参加者の方からは、「日頃から防災について親子で話し合っていきたい」とか、お子さんからは「実験が楽しくてわかりやすかった」「地震の時は机の下にもぐるだけじゃなくて、机の脚を持つようにする」といった、さっそく実践してくれそうな感想をいただきました。

自然史博物館との連携行事「出張! 自然史博物館」も人気企画です。今年は来月 12 月 3 日に「図の力～生きものを線と点で描くことの大切さ～」という講演会を開催し、あわせて 1 階エントランスでは自然史博物館からお借りした展示物の展示を、2 階では関連図書展示もしています。そのほかの展示では、日本最大級の文具と紙製品の見本市「文紙 MESSE」にあわせて大阪文具工業連盟からお借りした文房具のミニ展示と、関連図書展示をしたり、西区の社会福祉協議会のご協力もいただき、認知症についての図書展示をしたりしています。2 階ではこのとおり関係機関との連携事業が多いです。



それでは、大阪市立図書館の SDGs 推進への取り組みについてご紹介します。まずは、中央図書館の取り組み経緯です。

エントランスギャラリーでは、JICA 関西のご協力で毎年パネル展示を行っているとお知らせしましたが、2017 年には「持続可能な開発目標 SDGs ってなあに？」展を行いました。その後も「地球の未来を考えようーSDGs から学ぶ地球環境・生物多様性」展や「スポーツのチカラ！SDGs 達成のためにできること」展、これはスポーツにおける国際協力をテーマにした展示ですが、タイトルに SDGs とつけたパネル展示を行ってきました。開発途上国への国際協力を行う JICA との連携は、すべてが SDGs と関わっているとも言えると思いますが、「SDGs」とタイトルにつけたのは 2017 年のこの展示が始まりでした。

また、ユニセフ写真展でも 2019 年に「SDGs とユニセフ」展を開催しましたが、これも SDGs とつけたのがここからというだけで、その前の年にも「いのちの水」展という写真展をしていて、「紛争や干ばつにより、世界でたくさんの人々がきれいな水を求めているんですよ」という、まさに SDGs の目標 6「安全な水とトイレを世界中に」の写真展でした。つまり SDGs と名づける前から、いろいろな機関と連携して SDGs 推進の取り組みをやってきたということです。

そんな中 2019 年 11 月に、大阪市出前講座の一環として、SDGs をテーマにした企業セミナーを行いました。「図書館 120%活用術」という講座で、図書館の便利な使い方や情報検索の方法を、司書が講演するものですが、このセミナーでは、SDGs の目標 4「質の高い教育をみんなに」を導入にして、図書館の SDGs の取り組みを紹介し、目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」にからめて図書館のビジネス支援サービスをご案内しました。

このセミナーに合わせて、電子書籍を SDGs の

目標ごとに一冊ずつご紹介するブックリストを作成しました。このリストのデータセットは、オープンデータとしてクリエイティブコモンズライセンスにおける CC-BY4.0 で提供しました。この「電子書籍で読む SDGs ブックリスト」は大阪市の環境学習・情報サイト「なにわエコスタイル」の SNS でも、目標ごとに連載してご紹介いただきました。

そんな中 2019 年には、国連広報センターからご連絡いただき、ゆるやかな協力関係を結ばせていただきました。2020 年 1 月には 2 階で、図書展示「知ろう！学ぼう！SDGs」展を行いました。この展示では図書だけでなく、国連広報センターや JICA 関西からいただいたチラシやパンフレット、「電子書籍で読む SDGs のブックリスト」なども置いて、たくさんの方の利用者の方に手に取っていただきました。

2 階は人文・社会・自然科学、技術・産業分野の資料を置いておりましたが、SDGs の取り組みを進める中で、日々ご提供している資料には SDGs の各目標に沿ったものが多いことに、改めて気がつきました。そこで、これまでやってきた期間限定のテーマ展示だけでなく、各目標に合う図書の書架に、それぞれの目標のアイコンの掲示を始めました。例えば、闘病記文庫の棚には目標 3「すべての人に健康と福祉を」、防災コーナーには目標 11「住み続けられるまちづくりを」のアイコンを、地震学の棚には目標 13「気候変動に具体的な対策を」といった感じです。SDGs とは決して抽象論ではなく、例えば自分の持病のことで医療関係の本を探しに来られたり、地震や台風などの災害をきっかけに自分の家の防災を考え直したい、といった方に、ご自身の課題解決と SDGs は直接結びついた自分の問題でもあるんだ、という気づきになれば、と考えたからです。

コーナー以外の一般の書架でも、例えば交通の書架には目標 9「産業と技術革新の基盤をつ

くろう」、目標 11「住み続けられるまちづくりを」のアイコンを掲示しています。森林環境譲与税を活用して購入した、森林普及啓発図書のお披露目の際には、もちろん目標 15「陸の豊かさを守ろう」を掲示しました。

また、書架だけでなく、イベントの広報チラシやホームページでのお知らせにもアイコンを掲示しています。例えば「まちの保健室」のチラシには目標 3「すべての人に健康と福祉を」のアイコンをつけて広報するなど、SDGs への関心を引くよう意識した取り組みを進めています。図書展示「自然災害にそなえよう」のホームページでのお知らせには、目標 11「住み続けられるまちづくりを」のアイコンを掲示しています。

さて、今年コロナが5類に移行され、やっと通常モードに戻つつありますが、2020年に始まったコロナ禍では、当館でも2度の臨時休館を余儀なくされました。予想もしなかった長期の臨時休館で、「いつでも、どこでも、だれもが、図書館で情報を得られる状態」というのは当たり前なことではないのだと痛感しました。

臨時休館中も、電話でのご相談は受けていて、一日20件ぐらい電話やメール、文書でのレファレンスに対応していました。普段でしたら図書資料などを最初にご案内するのですが、臨時休館や、開館していても外出自粛の時期でしたので、本や雑誌で見つけた情報もデジタル化されていないか確認して、なるべくご自宅でも利用可能なデジタル資料を紹介する回答を心がけました。

ご質問内容はいろいろあるのですが、やはりコロナ関連のご質問も多く、その調査結果をより多くの方に活用していただこうと、国立国会図書館のレファレンス共同データベースに積極的に登録しました。「コロナに感染した人の体験談を読みたい」という事例は特によくご覧いただいていたので、登録後約9ヶ月でアクセス2万4千件以上、この一年でも800件ほど増えていて、現在4万1千件あ

まりのアクセス数となっています。文書やメールレファレンスも前年度の1.8倍ありましたので、外出自粛の時期であっても、だからこそかもしれませんが、レファレンスサービスが必要とされていることを実感しました。

また、当時みなさまが一番不安に思っていて知りたい情報、正しい情報を届けたいとの思いから、当館ホームページに「コロナに関する情報収集について」というページを立ち上げ、市や府や国、医師会などの、信頼性の高い関連サイトを一覧できるように集めました。こちらのページでは、コロナについて、やさしい日本語や日本語以外の言語で情報発信している公的なサイトの案内もしています。

またコロナ禍では、来館せずにご利用いただける電子図書館機能の利用促進にも努めました。ビジネス支援やレファレンスサービスの紹介動画や、電子書籍、音楽配信サービスなどを紹介する動画をYouTubeにアップしました。集合型の講座は難しいときでしたので、ビジネス講座はオンラインや動画公開とし、昨年度は7タイトル9件のビジネス講座を公開しました。

電子書籍については、学校の臨時休校もありましたし何かできることはないかと考え、令和2年度に学校向けに、夏休み期間限定で電子書籍のログイン専用ページを公開しました。小学校、中学校、高校それぞれに向けた英語学習用の電子書籍リストなども作成し公開したところ、たくさんのご利用がありましたので、令和3年度からは専用ページを常設しています。電子図書館機能のアクセス件数は増加し、前年同月比の5倍となった月もありました。

これらの、コロナ禍でも蓄積したノウハウを活かして地道にレファレンスサービスに取り組み、サービス活用について市民への周知に努めていることを評価していただき、第6回図書館レファレンス大賞の図書館振興財団賞を受賞しました。

電子図書館機能の利用促進については、

SNSでも情報発信を行っています。職員の誰がつぶやくときでも、その内容に合わせてSDGsのアイコンを活用できるように、SDGsのアイコンフォルダを準備しています。例えばこの左側のつぶやきは、4月7日の世界保健デーに合わせて関連の電子書籍をご紹介しますが、目標3「すべての人に健康と福祉を」のアイコンを載せています。右側は先ほどご紹介した、当館ホームページに「コロナに関する情報収集について」のページを立ち上げましたというつぶやきですが、こちらにもSDGsのアイコンを入れています。

次に地域図書館でのSDGsの取り組みをご紹介します。まず東成図書館の取り組みについてです。東成区は区の運営方針に「持続可能なまちづくり」を掲げており、特にSDGsの目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」に重点を置いています。東成区は松下幸之助氏が独立して初めて電球ソケットを作った地としても知られており、ものづくりの中小企業が多い土地柄です。戦後の復興も地域社会と共に成し遂げてきたという経緯もあって、地域とのつながりを重視する企業が多いという背景があります。そこで東成区では、区内企業のCSRやSDGs推進事業を支援するための企業区民連携フォーラム、通称「ひがしなりソケット」を2018年より始めました。東成図書館の職員もひがしなりソケットにオブザーバー参加しており、例えば他のソケットメンバーの区内企業の社長さんや社労士さんや信用金庫の方と数人でチームを組んで、それぞれの職場の課題をそれぞれの強みを活かしてどう解決するかを考えるというワークショップ型の勉強会に参加したり、実際にメンバーの課題解決に役立つ図書リストをご提供したりしています。東成図書館では、公認ファシリテーター資格を持つひがしなりソケットメンバーのご協力により「カードゲームでSDGsを知ろう！」というイベントをしたり、おすすめの本を教えてもらってSDGs図書展示をしたり、「SDGs広報ポスター」展も区役

所との共催で行ったものですが、地域連携の中でいろいろなSDGsの取り組みをしています。区役所や地域のステークホルダーと、勉強会をしたり助け合ったり、顔が見える関係づくりから一緒にやっているところがいいところだと思います。

浪速区は道頓堀の南側、難波駅のあたりの区ですが、外国籍住民も多い地域で、まちづくりビジョンに「人権のまちづくり」を掲げており、2019年11月には浪速区SDGs推進連携宣言という、「みんなで連携してSDGsに取り組みましょう」と宣言をして、SDGsの取り組みにも積極的な区です。また、浪速区役所は図書館にも関心を持ってくださっていて、「浪速図書館を子どもから大人まで誰もが気軽に利用し交流できる、人と人がつながる図書館にしたい」と浪速図書館活性化事業というのを立ち上げて、区から教育委員会に予算も移管して、まずはハード整備だと閲覧室の家具など整備してくださいました。浪速区役所はこのようにSDGsにも図書館にも関心があってフットワークも軽い気風があり、この「玉ねぎ染め体験とSDGsの学習会」も区役所から図書館に「SDGsウィークと一緒に何かやりませんか」とお声掛けいただき、図書館で開催しました。コロナの感染対策をしながらの工作イベントはなかなか大変でしたが、講座にもクイズがあったりゲーム形式の参加型で、親子と一緒に「17のゴールのうち、すでに行っていることやこれからやりたいこと、自分のゴール」を考えるとという時間もあったり、内容の濃い大好評のイベントでした。

「カードゲームで食品ロスを考えよう！」これは「食べ残しNOゲーム」というカードゲームをして、食品ロスの現状や世界の食糧事情について講話を聞くというものでしたが、クイズを交えながらの講話はみんなで答えや感想を言いながら進められ、一人一人が地球全体のことを考えて行動することの大切さを学びました。参加してくれたお子さんからは、「嫌いだから残すのではなく、嫌いでもがんば

って食べたり、レストランでは頼まないようにする」といった具体的な行動についての感想をいただいたり、実際に地域の飲食店の方が参加して下さっていて、「お客さんに食べ残しのことを言っていかないと思っていたから勉強になりました」と言ってくださいました。また令和3年度も区民まつりがオンライン開催になりましたが、この年の区民まつりのテーマはSDGsということで、「図書館のSDGsな取り組み」を紹介する動画を提供して区民まつりに参加しました。今からその動画を流します。



【動画の再生】再生した動画のリンクはこちら  
<https://www.youtube.com/watch?v=Xz1uHGAAaTMU>

いかがでしたでしょうか。地域図書館は本務職員が館長と係員の2名なので、この登場人物2名で作った動画です。

SDGs関連の図書展示は大阪市立図書館全館で行っています。「SDGsってなんだろう」展のようにSDGsについての本の展示、「貧困を考える」展などSDGsの各目標に絞って関連図書を集めた展示、こちらの「SDGsの本-旭区の新任教員おすすめ-」展は夏休み期間に図書館に研修に来られた区内小中学校の10人の先生に本を集めていただいて行った展示ですが、子どもたちも身近な先生が選んだ本かと思うと、ちょっと手に取ってみる気になるかもしれませんね。図書リストには先生からのおすすめポイントも書かれています。このように、さまざまなアプローチでSDGsの図書展示をしています。

まとめです。当館にはJICAやユニセフ、区役所や地域とのつながりがあり、各目標に関連した図書があり、こういう土壌が元々あって、「SDGs推

進のために何かしたい」となったときに、「電子書籍で読むSDGsのブックリスト」だったり、連携の展示や行事だったり、ひとつひとつの取り組みに結実していきました。でも、SDGsで何か始めようとしなくても、これまでやってきていること自体がSDGsという視点で見たらそうだよねということで、「見える化」つまり関連書架へのアイコン掲示だったり、イベント広報にアイコンを掲示したりもしました。また、コロナ禍では非来館型サービスを拡充しました。それはどんなときも「今届けなければならぬ情報、サービスは何か」を追求するという使命からです。それこそが「いつでも、どこでも、だれもが、課題解決に必要な情報にアクセス可能な“知識創造型図書館”」の姿であり、IFLAユネスコ公共図書館宣言2022にも「地域社会への積極的な情報の提供と啓発が公共図書館を目指すところである」とあるところです。

また、大阪市は2025年の大阪・関西万博を契機としたSDGsの推進を目指しています。青柳先生からも先ほどご紹介いただきましたが、大阪市は2020年度に大阪府とともにSDGs未来都市及び自治体モデル事業に選定され、SDGs未来都市計画を策定しました。この中で「TEAM EXPO 2025」プログラムに参画することでさまざまなステークホルダーと連携した取り組みを進めていく、としています。これまで区役所や各機関との連携についてご紹介してきましたが、これらの事業もこういう国や自治体方針の中で位置づけてやっている意識し、見せるということも大事です。追い風になり、取り組みも進みやすくなります。

今回このような貴重な機会をいただき、当館がさまざまな機関と連携する中でSDGsの取り組みを進めているということを中心にお話しました。連携は本当に大事で、ひとつひとつのつながりが当館の財産だと思っています。

図書館の使命としてやっていることは変わりません。子どもの貧困やジェンダーの図書展示、健康

支援の取り組み、防災の講座など、今までやってきたことを SDGs の切り口で見える化したということです。図書館サービスも行政サービスも、ほとんどやっていることすべてが SDGs の各目標とどこかしら結びつくと思いますが、まずは見える化することで、利用者みなさまにも、「あ、これ SDGs か」と気づきになり、SDGs が自分の生活の延長線上にあるものだと、身近に感じていただくことにもつながるかと思います。電子書籍リストの更新やアイコン掲載の取り組みを全館に広げるなど、課題はまだありますが、今後も連携を続けて、広げて、SDGs 推進への取り組みを進めてまいります。

ご清聴ありがとうございました。

## 事例発表②

### 「『真庭ライフスタイル』と図書館 －真庭市立図書館の取り組み－」

真庭市立中央図書館

参事 上杉 朋子 氏

こんにちは。真庭市から来ました上杉です。よろしくお願ひします。

真庭市どこ？と調べていらっしやると思うのですが、中国地方の中山間地にありまして、岡山県です。今日はそんな遠くの地方の取り組みを紹介する機会を与您いただきありがとうございます。今回はSDGsと図書館というテーマですけれども、真庭市にとっては、このSDGs 国連 2030 アジェンダ達成というミッションが、市自体の持続可能性にとても大きく関わることです。このため真庭市のこの持続可能に貢献することも図書館にとって、一つの役割だと考えながら取り組んでいます。ここ数年は図書館にも地方創生推進交付金を割り当ててもらい、蔵書整備などを行ってきたところです。

私は実は 2019 年度末まで約 20 年間大阪の豊中市の図書館に勤めて、真庭市に転職移住しました。真庭市では図書館の利用が少ないなど感じつつ、都市部と違い、市民や地域との距離感が近いよさがあり、そういう所も活かして図書館が地域の持続可能性に対してどんなことができるのかを日々考えながら取り組んでいます。

今日は、真庭市のことをお話ししてから、図書館の取り組みについてお話ししていきます。

真庭市は 2005 年に 9 つの町と村が合併して誕生しました。岡山県の北部にあり、北は鳥取県に接しています。私は真庭に転職するにあたって、岡山といえば晴れの国だから暖かいだろうと思って行ったら、とんでもない思い違いで、冬とっても寒いところで、雪も多く、移住するにあたって人生初免許をとって、かつ人生初スタッドレスタイヤを買ったと、まあ、そんな暮らしをしております。



真庭市は岡山県内で一番面積が広く、市域の約 80%は森林でして、人工的に植えられたヒノキと杉の木で占められています。人口は今年の 4 月 1 日時点で 42,102 人です。年々 800 人とか 900 人ぐらいずつ減少しています。人口は、甲子園球場に収まるぐらいなのですが、面積は約 828 km<sup>2</sup>で、東京 23 区の大体 1.3 倍です。小学校が 20 校、中学校が 6 校あって、児童生徒数は 3,050 人。今年度、新一年生がいなかった小学校が 2 校、複式学級の小学校は 7 校です。

真庭では木材を切り出して加工して出荷するところまでのすべての工程を市内で行うことができるので、日本で SDGs ということが言われる以前、90 年代から地元の産業に関わる人と行政とが勉強会を行い、木質バイオマスによる地域振興を目標してきました。バイオマスというのは、念のため説明しますと、一般的には再生可能な生物由来の有機性資源で化石資源を除いたものを指し、木材に関するものが木質バイオマスということになります。こうした地場の産業と資源を生かした経済循環を軸として、地域の再生を図っているとても良い例として 2013 年に出版された『里山資本主義』（角川書店）で注目されました。その後、2015 年 3 月に第 2 次真庭市総合計画を策定し、2040 年までに「地域資源が循環する持続可能なまちづくりを推進することにより多彩な真庭の豊かな生活を達成する」としました。この「多彩な真庭の豊かな生活」を真庭市では「真庭ライフスタイル」と呼んでいます。

その後、2018 年度に真庭市は SDGs 未来

都市に選定されました。取り組みも先導的なものとして評価され、全国 10 事業の自治体 SDGs モデル事業に選定されました。真庭市では毎年、「真庭 SDGs ミーティング」というのをしておりまして、昨年度は「真庭版 SDGs アクションリスト」が作成されました。これは 17 の目標に対して真庭市民の普段の暮らしの中にこんなこと取り入れませんか、という提案です。このなかで 4 つ目の目標「質の高い教育をみんなに」は、「図書館に行こう」、「真庭市には 7 つの図書館があります。図書館を活用し、学びの機会を持ち続けましょう」とされました。

続いて図書館の話に移ります。合併する前から、あった図書館を維持した 7 つの図書館があります。北から、蒜山図書館、湯原図書館、美甘図書館、勝山地区にある中央図書館、久世図書館、落合図書館、北房図書館。これに「ブックるん まにわ」という愛称がついている BM が一台走っています。

令和 4 年度の蔵書数は全館合わせて約 27 万冊。登録者数は約 1 万 7 千人、年間の個人貸出者数は約 4 万 7 千人。貸出点数は約 21 万点です。中央図書館だけは単独の建物で、6 つの分館（地区館）は市役所の分室である振興局や、文化センターとの複合施設になっています。

続いて真庭市立図書館と SDGs についてです。真庭市は地域資源の循環する持続可能なまちづくりを推進することにより真庭ライフスタイルを達成しようとしています。市の図書館がこれに対してどんなことをしているかを、中央図書館を中心にお話をしていきます。

中央図書館は、2018 年の 7 月に旧勝山図書館を移転して開館しました。建物は築 37 年の町役場で、リファイニングという建築手法で図書館に生まれ変わりました。リファイニングとは、もとの建物を 80% 使うので廃材が少なく、建築コストも 60% から 70% 縮減、耐震性を確保し、新築と

ほぼ同等に再生する建築手法です。館内の照明は全て LED で行い、1 階と 2 階の閲覧室の冷暖房は木質バイオマスボイラーを使っています。このバイオマスボイラーの燃料は木材を加工する際に出るかんなくずを使ったペレットを使っておりまして、市内の業者さんから購入しています。さらに床や壁、本棚に使っている木材の 9 割以上を真庭産の木材を使用しており、机や本棚は市内業者さんが加工して設置してくれました。



写真にもありますが、1 階の天井に丸い天窓が 7 か所開いています。これは耐震基準を満たすための吹き抜け窓です。2 階の明かりや外の明かりが入ってくるので、1 階の照明を少しだけ、減らすことができ、二酸化炭素排出量の削減に少しですが、貢献していると言われています。このように中央図書館は SDGs 未来都市の真庭らしさが詰まった建物となっています。



中央図書館がある勝山地区は旧出雲街道沿いの宿場町であり、城下町でもあります。写真にあるように江戸時代から続く酒蔵などもある「街並み保存地区」となっています。観光のついでに、

中央図書館に立ち会ってくださる方も多くて、「地方にこんな素敵な図書館があるのですね」とか、「近くに引っ越してきたい」と声をかけていただくこともあります。そして実際に図書館が移住の際のポイントになることもあります。



動画を見てください。

真庭市で生まれたほかりちゃんです。ほかりちゃんのご両親が東京から真庭市への移住を決めた一つの大きなポイントがこの中央図書館だったそうです。お

父さんは地域おこし協力隊として活躍後、映像関係のお仕事を、お母さんは今年チーズケーキ専門店を開店、ほかりちゃんも元気にこども園に通っています。

2020年に作家の平田オリザさんが真庭市に講演に来られた時、「地方の人口減少が続く中で、若者のUターンや子育て世代の移住を呼び込むには、町の魅力が何よりも必要。そのためには図書館の充実が欠かせない」とおっしゃっていました。本当にそうなのだなと思っています。

建物が素敵とか、館内が綺麗とかいうことのほかに、中身も充実していると言われるように、2021年に図書館の基本計画である「真庭市図書館みらい計画」（以下、「図書館みらい計画」）を策定しました。「図書館みらい計画」では、地域のことをわが事として話し合い、考え、力を合わせて地域に必要な取り組みを行っていく地域自治によって、真庭ライフスタイルが成り立つのではないかと、「市民や団体による地域自治の拠点として積極的に役割を果たす」ことを図書館の使命として掲げました。

「図書館みらい計画」を策定する過程で、SDGs コーナーの見直しも行いました。開館当初はSDGsの17の目標に対して一冊ずつ本を紹介していましたが、これを「真庭らしい」SDGsという視点で見直しました。真庭の歴史や産業、伝

統工芸、人々の暮らしの営みのなかにもSDGsを見つけてみるというコンセプトで資料を選んでいます。更に、別に設けている地場産業である林業にまつわる「木のくに資料センター」や、発酵食品に関する資料を集めたコーナーも合わせて見られるように表示を工夫しました。真庭市は味噌、醤油、日本酒、ワイン、ビール、チーズといったさまざまな発酵食品の生産が盛んな所で、発酵に関わる異業種の生産者さん達が「まにわ発酵's」というチームを作って、真庭の発酵文化を発信しています。そこで、中央図書館では郷土資料室の中に「真庭と発酵文化」というコーナーを設けて応援しています。

「発酵に魅せられて | まにわ発酵's」

<https://cocomaniwa.com/yamabicoclip044-20230330/>

今日はお見せしませんが「まにわ発酵's」のプロモーションビデオは、さっきのほかりちゃんのお父さんが作られました。すごく素敵なプロモーションビデオなのでよかったらまた見てください。

現在、「図書館みらい計画」に沿って取り組みを進めていまして、今日はその中から持続可能な町づくりにつながると思われるものを、三つ紹介します。「まにわ図書館ラジオ」「100年前の植物標本展」「真庭市立図書館附属みんなの校歌研究室」です。

「まにわ図書館ラジオ」は昨年度2022年の7月に始めました。図書館の中に設けたスタジオからラジオ番組を生放送するというものです。生放送は図書館の中でしか聞けず、後日、図書館の公式YouTube「まにわとよかんチャンネル」で聞けるようにしています。私、本は人の声のようなもので、図書館はいろんな時代のいろんな人の声の集まりでもあると思っています。そんな場所に地域の人が集まって、その土地ならではのおしゃべりをして、それがまた資料になって、図書館に蓄積されていったらいいな、そんな取り組みになっていくのかなと思っています。今年の夏に3回目の放送を



して、12月にも放送予定です。ちょっとだけお聞かせします。

～音声再生～



「まにわ図書館ラジオ vol 3 2023年6月25日放送 前半」

<https://www.youtube.com/watch?v=ihg1vUw5Sqc>

2つ目は「100年前の植物標本展」です。これも今年夏に開催しました。牧野富太郎さんとほぼ同時期、明治42年から44年にかけて、真庭の九津見肇さんという方が植物を採取して標本として残されました。2021年度末に中央図書館の前身である旧勝山図書館からこの標本が見つかりました。市内のネイチャーセンターに整理してもらったところ、約700点あり、とてもいい状態だったので、これを使ってネイチャーセンターと共催でイベントをしました。内容は標本展、ネイチャーセンター館長のギャラリートーク、植物標本を作るワークショップです。また、真庭市の隣の津山市にお住まいの方が、お祖父さまと牧野富太郎さんとがやりとりした手紙を貸してくださったので、一緒に展示させてもらいました。ちょうど朝のドラマが放送中だったので、マスコミの取材もあり岡山県内や関東、九州の方も見に来てくださいました。標本作りは、連続2回の講座としました。1回目に図書館の裏山に植物採集に行き、図書館で植物名を調べて、新聞紙で押し葉にして持って帰る。2回目は3週間後で、押し葉を台紙に貼ってラベルを書いて完成させました。その時の記念撮影の写真です。



できあがった標本は九津見さんが百年後の私たちに残してくださったように、私たちが百年後の真庭の人に残そうねということで、百年後の人に死てた手紙をつけて図書館で展示をしました。このイベントでは、明治時代の植物標本を通じて100年前の真庭の人や自然を知ること、少し先、さらに100年後の環境のことを考えるきっかけにもなったのではないかと考えています。

3つ目は「真庭市立図書館附属みんなの校歌研究室」という事業です。中央図書館長と地域おこし協力隊の雑談から生まれました。校歌はそのまちにしかなくて、小さい子からお年寄りまで同じ歌を歌えたりもします。戦後6・3制になった頃、真庭市には小学校51校、中学校が24校あったのですが、どんどん閉校になり、歌われなくなった校歌を覚えている世代に話を聞けるのが今ギリギリのタイミングじゃないかということで始めました。

昨年度は校歌の情報を発信するためのウェブサイトを構築しました。このウェブサイトは「真庭校歌研」と検索していただくと見ることができます。今年度は、夏頃から来館者に聞き取りをしています。校歌を覚えている方がいらしたら、歌ってもらい、動画を撮らせていただき、「まにわとしまかんチャンネル」で公開しています。歌うだけでなく、振り付けを思い出して踊ってくださる方もいらっやいます。二人一組で肥えを汲むのが大変だった話、子供の数がすごく少なかったので修学旅行には保護者や近所のおじいちゃんやおばあちゃんも一緒に修学旅行に行った話など、真庭の少し昔の話もたくさんお聞きできています。校歌の話をしていただけ

で話している人も元気になっていくように感じますし、会話もはずみます。

収集した校歌の動画があるので見てください。



真庭校歌研究室「上水田小学校 校歌」

<https://www.youtube.com/watch?v=1YtlcG-eNUY>

はじめのうちは 3 人で歌っていたところに、どこからともなく、もうひとりおじさんがやってきて歌い始める。いい光景だなあと感じませんか。

こんな具合にああでもない、こうでもないといワイワイやっておりますと、それができるなら、これもできそうかなとか、これやってみたいのだけど、一緒にやりませんか？と図書館に声をかけてもらえるようになりました。こうしたこと自体も「真庭ライフスタイル」であり「持続可能なまちづくり」につながるのではないかと考えています。



最後に、この写真は昨年 12 月に図書館にラッピングをした時のものです。12 月といえば贈り物ということで、図書館にもリボンをかけ、ガラス面には子どもたちと絵を描いて贈り物に見立てました。「図書館にリボンをかけたいんですよ」とあちこちで言い回っていたところ、「赤い布ならありますよ。」「業務用のミシンで縫ってあげましょうか」とい

う人が現れて、実現しました。これが遠くからもよく見えて、



雪が降った時にはこの世のものとは思えませんでした。「川の向こうからも図書館が見えて、すごくきれいだったー」って小さい子が言いに来てくれたり、「これが見たくて初めて図書館に来ました」という方がいたりしました。これは国立国会図書館のカレントアウェアネスポータルさんでも紹介してもらいました。

「真庭市立中央図書館（岡山県）、建物が赤いボンでラッピングされて「おくりもの」に：「ことばはおくりもの月間」のイベントの一つとして」

<https://current.ndl.go.jp/car/168649>

このように様々な取り組みを通じて、図書館は本を読む人だけが行くところではなく、読まない人にとっても楽しいところだね、こんな図書館がある真庭に住みたい、住み続けたいという人を増やすことで、「持続可能なまちづくり」に貢献していきたいと考えています。

随時情報をこまめに SNS に発信しておりますので、良ければインスタとかフェイスブックも見ただければと思います。

以上ご静聴ありがとうございました。



### 事例発表③

#### 「絵本で SDGs 絵本で世界とつながろう～絵本を使ってできること～」

絵本で SDGs 推進協会

代表理事 朝日 仁美 氏

みなさま こんにちは。新潟県糸魚川市で学校司書として勤務している朝日です。今日は学校司書という立場ではなく「絵本で SDGs 推進協会」代表理事としてまいりました。どうぞよろしくをお願いします。大変素敵な事例をたくさん聞いた後、最後の発表となり恐縮しています。私からは今まで図書館で行ってきたこと、図書館以外の所で行ってきたことなどを発表させていただきます。このような機会を与えていただきありがとうございます。簡単ではありますが、会の紹介をさせていただいた後、いつも私たちがやっています絵本を読ませていただき、皆さんで考えていただくというワークをしたいと思います。どうぞお付き合いいただきたいと思います。

「絵本を使って地域や世界をつなぐ～絵本で SDGs 推進協会を立ち上げて～」と画面に出しておりますが、最初に簡単に私の自己紹介をさせていただきます。出身は神奈川県横浜市で結婚を機に新潟県糸魚川市という所に嫁ぎました。糸魚川市という所は、私が自己紹介で使うときは「限りなく富山に近い新潟」と言っています。世界ジオパーク認定地で、難読漢字の糸魚川というだけでなく、早稲田大学の校歌を作った相馬御風さんや、芸能人の横澤夏子さんの出身地でもあります。そのようなところで学校司書をしている者です。

今日報告する活動は学校司書としての活動ではなくて、絵本専門士、今年度第 10 期を養成中のまだ歴史の浅い資格です。文部科学省の下部組織国立青少年教育振興機構が事務局



となって運営・認定しており、限りなく国家取得に近い資格などと言って、認定者は紹介しています。その絵本専門士になってから、勉強したことを使いながら、絵本で何かできないかなと思って始めたのがこの「絵本で SDGs」の活動です。

読み聞かせだけではなく、直接子供たちや、親子に話したりすることがあるのですが、その時に SDGs を考えるにあたって、「あなたの大切なもの、大好きなものは何ですか？」ということを考えてもらいます。これを考えながら、いろいろなことを想像してもらったり、自分なりに考えてもらったりするように最初に説明しています。

皆さんも何度も聞いているのでお分かりだと思いますが、SDGs は、持続可能な開発目標で 17 のゴールがあることを確認しながら聞いてください。私たちの会は、17 ゴールに合わせて絵本の展示をします。絵本の展示だけでは見ただけになってしまったり、中身を読むこともなく通るだけになってしまったり、多いと思ったので、より具体的にするために読み聞かせや説明を言葉でしていきます。その後は、やはり考えてもらいたい、自分の生活と何か結びつけてもらいたいということで、ワークショップをするようなことを考えました。SDGs を体験と結びつけるということです。これでおしまいにしてもよかったのですが、それでは忘れてしまうことも多いので、最後により身近な話題にということで、ワークショップや読み聞かせに参加しなかった家族や友達に今日参加して学んだことや考えたことを話してもら

ったり、SDGs について調べてもらったりするようなことをお願いし（宿題とし）、また絵本の展示に戻ってきてね。などと言って、図書館の利用促進にもつなげています。

ここから、事例発表になりますが、最初にさせていただいたのが、京都市環境保全活動センター「京エコロジーセンター」での活動となります。こちらは環境児童館のような所になっています。その中に図書室が設置されています。この図書室の絵本を利用して、17 のうち 6 つのゴールについて深掘りをして絵本を紹介するという形をとり、まず展示から始めました。その際にこちらの図書室で活動しているボランティアの方にも一緒に手伝っていただき、本を紹介するポップのようなものを一緒に考えながら作りました。まずはボランティアの方々自身が SDGs について理解してもらいたくお話をしたことを覚えています。こちらの読み聞かせでは、求められるゴールが限られていたので、そのテーマに合った環境についての本を多く読みました。

次の事例は、糸魚川国際人材サポート協会という NPO からの依頼の紹介です。毎年依頼がありまして、外国籍の親子などに、絵本や読み聞かせの大事さと図書館利用促進を実際に読み聞かせを通じて行う事業をしてきました。2019 年は外国人親子のための読書会で SDGs をテーマにして開催しました。

こちらの講座で絵本を読み聞かせして SDGs の説明をした後に、何も柄のないエコバッグに野菜の端材を使ってスタンプをしていくワークを行いました。野菜スタンプだけではなく、それぞれが工夫し始め自分の手形を押す子が出てきました。この手形は、今の手形なので、一年経ったらもっと手が大きくなるし、三年経ったら五年経ったらということ



で、こちらを思い出として、またはその時の環境状態や SDGs の推進状態などを考えてほしいと言って締めくくっております。

次は、お寺で読書会を開いた時のお話です。開催は 2 月。豪雪地ではない糸魚川でも雪が降り、なかなか出て行く所がないということで、お寺からのご依頼を受けて、絵本で読書会をしています。その際、読書会と聞くとつい難しく構えてしまう、本を全部読んで行かなくては出られないのではないかとという声が聞こえたので、どなたでも参加できるように、何も読んで来なくていいので来てくださいという広報をしていただき、その場で絵本を読んで SDGs を考えるワークをさせていただきました。

続きまして、京都市動物園で行ったものです。SDGs は人間だけでなく、あらゆる生き物、動物も植物も関係していると子どもたちに話しています。生物多様性というところに関係があるということで、動物園からご依頼いただきました。こちらの動物園には図書コーナーがあり、ブックトラックのようなものに、関連しそうな絵本の選書をさせていただいて、何かイベントがあるごとに、このブックトラックも運んでいただき SDGs の推進をしました。

次は鳴門教育大学の附属図書館にお招きいただいた事例を紹介します。教育大学なので、今後、子どもたちと接点のあるような大学生が多く学んでいました。子供図書館が併設されているので、普段から地域の方もかなり利用されるということもあり、夏休みの期間に長期に渡り展示していただきました。地域で読み聞かせをしている子育て支援の NPO 団体にも協力いただき、毎日、SDGs クイズやスタンプラリーをしました。最後の写真は大学生と一緒に読み聞かせの講座や読み聞かせのイベントをした様子です。



こちらのポスターに「G20」と書いてあるのですが、この時期、鳴門で国際会議があったので、こちらの啓発も兼ねてということでこのポスターを貼らせていただきました。ちなみに京都の場合も気候変動、環境問題に関する国際会議があったので、そちらの啓発も兼ねてあの展示をさせていただきました。

動物園の他には水族館、こちらは神戸市立須磨海浜水族園という所で行った講座を紹介합니다。水族園なので、水槽を見ているような写真ですが、これはバックヤード見学をしている様子です。お仕事体験というかキャリア教育の部分にも関連して紹介しました。そして水族園の方に地域の海の状況や魚の話などをさせていただきました。その後、ちりめんじゃこの中に入っているちりめんじゃなくものを探して、それをキーホルダーにするワークをして、持って帰って誰かに話しをしてねという願いをしました。



大牟田市の動物園でも行ったことがあります。大牟田市ではたくさんユネスコスクールがあるということもあり、多くの親子に参加していただき、興味を持って、いろんな意見を出してもらいました。こちらでやったワークは自分の描いた絵を転写シートにしてミニエコバッグを作るというもので、このワーク

に参加した後、もう一度自分たちで動物園を回ってもらい環境問題や環境エンリッチメントという展示の仕方について見てもらいたいとお願いもしました。

もう一つ、京都市立動物園の事例を出しておきますと、こちらの園ではゾウのフンを堆肥にし畑の作物に活用していると伺ったので、少しその堆肥にしたものを分けていただいて、紙作りをするというワークをしました。紙を作るのにどのぐらいの材料が必要かということ、または紙を作るのにはどんな手間がかかっているかなどを体験したことによって、紙を大事にしようと話しました。または何カリサイクルできる物はないかということも問いかけた次第です。その他に、ゾウの生息地についても話をしました。展示では動物園にいる動物のことについて載っている絵本を紹介してきました。



ここから先はコロナになってしまったので対面できなかつたことを簡単に紹介します。真珠まりこさんのもったいないばあさんとコラボしまして、「もったいないばあさんと考えよう 世界のことと SDGs」というパネル展のお手伝いをしてきました。それまではショッピングモールで夏休みに絵本を何千冊と集めて大々的にやっていたそうですが、それができなくなってしまいました。それでも何もできないと言っているわけにはいかないので、Zoom を使ってSDGs の読み聞かせと、説明をした後、Zoom を使って、材料を参加の親子に先に送っておいて、SDGs ホワイトボードというようなものを作って自分

のうちで工作をしてもらうようなこともしてきました。



そして Zoom でもできることがわかったので、図書館の職員研修として、オンラインでの講座や高校の学校図書館司書の方への研修などもさせていただきました。少しコロナが少し収まった時期というか、できそうな時にやったのですが、子供食堂の利用者、または子供食堂に関わる大人の方々に「絵本で SDGs」をしてみました。

あとは、全国レベルでいろいろやっている女性支援団体が SDGs 推進と国際女性デーの普及を目指した、目標にしたイベントで、この後、読みます『わたしがかわるみらいもかわる SDGs はじめのいっぽ』の作者である原琴乃さんと対談させていただきました。今回会場後ろに絵本のコーナーを作ってください、そこにも展示してあります。展示の中の雑誌は寄稿させていただいたもので、私たちがやってきたこと、こんなことを考えてこの活動を始めたなどということについて書いたものもありますので、よかったら読んでみてください。

「絵本で SDGs」という話が普及してくると、新潟県長岡市で、ボランティア養成講座の講師を務めた時に、最後の 15 分でいいから SDGs の話をしてほしいという依頼があって、ボランティア養成講座の中にも SDGs の視点を取り入れることを始めてみました。

私は学校の司書でもあるので、やはり家でも本を読んでもらいたいと思っています。図書館の利用や閲覧もありますが、おうちに気に入った本は持っ

て帰ってほしい、手元に置いてほしいということも思っていたところ、京都イオンモールの大垣書店さんからお声掛けいただきまして、夏休みの長期にわたる展示という形で、今度は絵本と読み物、両方を合わせて 150 冊、販売促進の主旨にもなるのですが、展示のお手伝いことができました。この時も真珠まりこさんのご協力を得てパネル展をさせていただきました。残念ながらこの時期、またコロナがひどくなってしまったので、実際には伺えなかったのですが、ショッピングモールに来たいろんな方に見てもらえて、SDGs に特に関心なかった方にも見てもらえたことは大変良かったかと思います。



こちらから新潟県の BSN 新潟放送のキッズプロジェクトに、SDGs の講座を入れてもらい、県内上越、佐渡、長岡、新潟県立図書館の四カ所の図書館を会場にして BSN のアナウンサーと一緒に講座をするということを予定しました。しかしこちらも県立図書館と上越市 2 カ所しかできず、その他の館では展示や紹介をしてもらいました。

2022 年になりまして、第 3 回パリ協定と SDGs のシナジー強化に関する国際会議に参加しました。これは環境省が主催の国際会議だったのですが、そこで発表させていただきました。恥ずかしながら必死になって事例発表をしたのですが、この写真は終わってホッとしてにっこり笑っているところ撮られたものです。百点満点の成功ではなかったのですが、国際的にも発信できた

第一歩になったかと思います。



去年は平凡社の別冊太陽シリーズで『絵本で学ぶ SDGs』というムック出ささせていただきました。全国の絵本専門士の中から 5 人の絵本専門士で 91 冊の絵本を選びました。17 ゴールプラス 1 の 18 項目に分け絵本を紹介しております。この紹介文の大半は絵本専門士が書いています。表紙画像だけではなく、中身も写真で掲載していますが、一冊だけ中身の許諾が下りなくて、映っていないのがあります。もしよかったら見つけてみて、これだな、なんでだろうなと考えてみてほしいと思います。

さて最後になりますが、「あなたの大切なもの、大好きなものは何ですか？」と最初に聞いた答えです。答えというか、こんなふうに考えてもらえると SDGs をより身近なものに感じてもらえるのではないかとっているものですが、「SDGs の 17 のゴールはあなたが大切なものを守る入り口です。」こんな風に紹介して親子または家族、地域で考えてもらうようにしております。

このように会の説明をしたのですが、私たちがやっているワークの中では、読み聞かせをして、小学生にも幼稚園、保育園児にも理解が進み自分ごとができるように、SDGs を説明しています。今のところ、読み聞かせに使用している『わたしがわかる みらいもわかる SDGs はじめのいっぽ』は概要がわかりやすいので、こちらを使っています。今回は汐文社からデータを預かりまして、これが終

わり次第、削除するという約束で、こちらの大写しにして読みたいと思います。

#### 読み聞かせ

「わたしがわかるみらいもわかる SDGs はじめのいっぽ」原 琴乃／作，MAKO オケスタジオ／絵，汐文社，2020

今読んだ本が『わたしがわかるみらいもわかる SDGs はじめのいっぽ』という本になります。この絵本の最後に解説として SDGs がわかるように載っていますので、全く SDGs のことがわからない方でも、こちらを読んで子供と話することができますし、また読んだ後に子供と一緒にこちらを読んで考えてもらうこともできると言っております。本当に SDGs の本はたくさん出ています。大人向けのもの、子供向けのものとありますが、この絵本から読でほしいと思って紹介しています。この本を読んだ後にいろいろワークをするのですが、もう一冊、読んでみたいと思います。次の本はおむすび舎という出版社からお借りした本です。おむすび舎という出版社は新潟県燕市の出版社で食育に特化した出版社を立ち上げた一人出版社が最初に出した絵本です。こちらを読ませていただきます。

#### 読み聞かせ

「いのちのたべもの」中川 ひろたか／文，加藤 休ミ／絵，おむすび舎，2017

今読ませてもらいましたが、食育に特化した本を作っている出版社なので、こういうお話になります。私たちがやっているワークはこの絵本から 17 のゴールが想像できるか、またどんなところがどのゴールになるか？なんていう話をしています。いろいろな研修会で行いましたが、一つ挙げておくと、買い物にエコバッグを持って行く場面が 12 番の「作る

責任使う責任」のところにも役立っているのではないかという意見が出ました。大人よりも子供の方が想像力が豊かなのか、強引なところもありますが、実はこの絵本に一冊で 17 ゴールすべてがつくというワークをして、みんなで考えて、その場にいる人たちで共有しています。

最後に、私たちのワークショップではいろいろなことをするのですが、「誰かに伝えてほしい」と必ず言っています。なので、今日聞いていただいた皆さんにも、ぜひお帰りになったら、3 人の人に私の話を聞いたこと、または、この研究大会に参加したことを話してください。1 人目に話した時はいろいろな質問を受けと思うのですが、その質問を踏まえた上で 2 人目に話す時には上手になると思います。3 人目に話す時には、もう SDGs をちゃんと説明できる人にきつくなってくださると思いますので、ぜひ 3 人の人にはお話ししていただけると嬉しいです。

ご静聴ありがとうございました。



## 研究協議

司会・コーディネーター

青柳 英治 氏（明治大学文学部）

パネリスト

上田 優里 氏（大阪市立中央図書館）

上杉 朋子 氏（真庭市立中央図書館）

朝日 仁美 氏（絵本でSDGs推進協会）

青柳氏 皆さん、おはようございます。2日目の研究協議を始めさせていただきます。ここから先は司会とコーディネーターを私が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本研究集会のテーマであります「図書館とSDGs－図書館ができる持続可能な取り組み－」に沿って、協議を進めてまいります。

パネリストの上田さん、上杉さん、朝日さん、昨日は事例発表をいただきましてありがとうございました。昨日、話しきれなかったこと、他の方々の発表をお聞ききになって補足したいこと、疑問点、あるいは他の方々のご発表に対するご意見など、それぞれ発言をお願いできればと思います。

まずは、私からお話をさせていただきます。昨日、上田さん、上杉さんの事例発表を伺って、それぞれの図書館で実践されている利用者への課題解決支援サービスの一部をSDGsの推進と結びつけて捉えていらっしゃるように感じました。課題解決支援サービスは、皆さんご存知のように、図書の展示とか、イベントや講座の開催によって行われることも多いと思います。特に、イベントや講座等の開催にあたっては、他の団体等と連携したり、協力を得たりして行われることもあるでしょう。昨日、私のお話の中で、国内の事例を整理しましたが、その中で、図書館がサービスを直接利用者に提供するもの、司書のスキルや図書館資料を使って他機関等と連携などをしてイベントを実施する



もの、これらのパターンに昨日ご報告いただいた内容は当てはまるのではないかと感じました。

お二方が、勤務されている大阪市、真庭市も、昨日少し触れましたが、SDGs 未来都市、さらには自治体 SDGs モデル事業に選定されていました。国が自治体 SDGs モデル事業を、実際に選定するにあたっては、各自治体は 2030 アジェンダの中で示された持続可能な開発の三つの側面である経済、社会、環境に沿って事業の計画を進めているようです。計画書もそのような形になっているかと思います。そのため自治体の実態や特性を踏まえて設定した、この三つの側面に則した目標に対して図書館としてどのように関わっていけるのか、こういう視点をより強く意識して図書館サービスの中に取り込んでいくことで、図書館ができる SDGs への取組をより鮮明に打ち出すことができるのではないかと感じました。

また昨日私のお話の中で国外の事例をもとに整理をしましたが、その際に示した四つの視点の一つ目として、地域の実情に基づくという点を指摘しました。この視点に関わってくるのではないかともしました。

そこで上田さんと上杉さんに、お伺いしたいのですが、お二人が勤務されている図書館では、SDGs への取り組みにあたって、勤務されているそれぞれの自治体である、大阪市と真庭市が策定された SDGs 未来都市計画、あるいは SDGs モ

デル事業の文書等をどのくらい意識あるいは視野に入れて、図書館サービスを実施されているのか教えてもらえればと思います。いかがでしょうか？

**上田氏** 大阪市の SDGs 未来都市計画というのは簡単に言いますと、大阪・関西万博が 2025 年に開催されますので、開催都市として万博を契機として、様々なステークホルダーとの連携の中で SDGs 先進都市の実現をめざします、というのが概要です。SDGs モデル事業に選定されましたものにつきましては、大阪ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業と言いまして、経済面・社会面・環境面の三側面からプラスチックごみ対策をして、大阪湾をきれいにしましょう、というのがそのモデル事業なんです。もちろん私も大阪市の職員として、市が行う事業や計画に目を通してやっているところ。

SDGs の取り組みにつきましては、「大阪市まち・ひと・しごと創生総合戦略」と重なる部分も多いよねということで、そちらの方に落とし込んで、一体的に推進しています。

大阪・関西万博自体は「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマにしているということで SDGs との関わりは深いですし、これを契機として SDGs を進めていこうということ、主眼に置いております。大阪市の各部局にしても区役所にしても、SDGs で何か連携事業をやろう、という話が出たらみんな、そうですね、となって連携が進みやすいというのが実状です。

**青柳氏** ありがとうございます。大阪市の政策の中で、特にそれらに目を通して意識しながら、図書館における活動やサービスを進めているということをご報告いただきました。続いては、上杉さん、いかがでしょうか？

**上杉氏** 真庭市の SDGs 未来都市計画は 2018 年から 2020 年版と 2021 年から 2023 年版とがあります。2018 年から 2020 年の方に、「2030 年のあるべき姿」というページがありまして、ここに図書館についての言及が入っております。ちょっと読みます。「木の香り溢れる中央図書館を拠点とした生涯学習、木造の小学校こども園などを拠点とした郷育により、都市の「効率」より農山村の「生活の質」を重視する若者、関係人口、移住者は増加し、彼らが地域に創造される新産業の担い手となる。」これを 2030 年のあるべき姿に定めて、ここに向かって SDGs に取り組んでいくとしています。私たちはここにこの文言があることを心に留めて、昨日もお話したような、真庭にこんな図書館があってよかったよね、こんなところに住んでみたい/住み続けたい、と思っていただけるような図書館作りを進めているところです。「図書館みらい計画」にも持続可能な地域を地域自治によって、行政だけでなく市民と協働してつくっていきましょうという気持ちを込めています。毎年開催する、SDGs 円卓会議というものが、これは SDGs を市民運動として推進していくための組織として、市長、副市長、関係部局の人、それから高校生とか真庭市の中でいろんな産業に関わっている人、普通の市民がまさに円陣になって話し合っています。法政大学の川久保俊教授にいつも基調講演とアドバイスをいただきながら地域ぐるみで SDGs を達成していこうという会議です。

**青柳氏** ありがとうございます。今スクリーンに表示しているのが、真庭市の SDGs 未来都市計画の前のバージョンです。ここでご説明いただいたように図書館についての言及がありますね。こういったところを一つの拠り所として、実際の図書館における活動やサービスにリンクして進められている一つの事例になるかと思いました。

続いて、昨日、朝日さんの事例発表を伺って思ったのですが、ご発表の中で、絵本でSDGs推進協会が掲げていらっしゃる四つのコンセプトについてお話いただきました。具体的には展示や読み聞かせをして、SDGsを理解し、ワークショップなどの体験を通じて、SDGsをより身近に感じる。そうすることで、自分事として捉えるということであったかと思います。このコンセプトを元に、絵本を中心に活動されているわけですが、絵本の部分を、一般の図書に置き換えることも可能なように感じました。そうすることで、公立図書館でも活動できるのではないかと思います。このコンセプトが、公立図書館等での取り組みにつながったという事例等があれば、ご紹介いただければと思います。いかがでしょうか？

**朝日氏** ご依頼いただくのが公共図書館や、県教委とか市教委という行政の方々が多いので、まずご依頼いただいた地域の17ゴールのうち、17ゴールは説明するのですが、どのゴールを参加者に知ってもらいたいのか、またはその地域ではどのゴールについて進められる可能性が高いか、市民の理解が得やすいかなどを聞きます。またはSDGs推進課、総務課の方々とは相談させていただきます。海の近い地域であれば、海に関連する絵本の展示を少し多くする。山に近ければ山に関連する絵本を多くするという形で、一応17ゴールの絵本は用意して紹介するのですが、その中で特に今回は地域に合ったゴールをいくつかピックアップして、その絵本を多くするみたいなことをしてきました。そうしてそこから考えることによって一つのゴールを達成するために、複数ゴールが絡んでくることもあるので関連付けて図書館や市役所でも展示をしていただいたり、広報していただいたりすることができれば、地域の方々を巻き込んでSDGsを推進できたことの一つではないかと思います。あとは、男女共同

参画推進課のようなところでお招きいただいた時は、図書館の方をお願いをして、こういう講座をするという告知から始めていただいて、終わった後にはやはり同じようにそのまま、使用した絵本を図書館でも別置して啓発していただく。そこに参加していただいた女性団体の紹介をしていただいたり、講座開催報告をしていただいたりというお願いはしています。

他には今年度に関わることとして、新潟県の子供読書に関わる大人の方々に向けた講座で講師をさせていただいた時は、SDGsというような名目ではなくて、「支援を必要とする読書」というテーマで講座をしました。例えば、目が見えないにも色々な目が見えない理由があるという話から、それに伴う大活字本やいろいろな補助器具があること、電子書籍の説明などをして、SDGsと結びました。障害者サービスというところで、広げていくことも、どこの図書館でもできることではないかと思って話しました。

**青柳氏** 支援を必要とする読書ですね。なるほど。そうすると、障害者サービスあるいは高齢者サービスなどとの接点が見えてきますよね。公立図書館の場合は、図書館を中心に関連する他の部署の方々との相談や連携も視野に入れて、あるいはお願いしたり相談したりしながら活動されているようです。ありがとうございました。

公立図書館についてのイメージを少し皆さんに持っていただけたのではないかと思います。では、昨日の補足、あるいはご意見等を順次、お話いただければと思います。上田さんからお願いできますか？

**上田氏** 昨日、大阪市立図書館の取り組みについてはお話ししたかなと思うので、どうしてもその流れに入れきれなかった、私のふわっとした思いというか、そういうようなところを述べたいと思います。

最近 SDGs ってよく聞きますよね。テレビでもいろんなイベントとかでも SDGs のことが多いかと思うのですが、SDGs をまだ環境問題のことだと思っている人も多いかなと思うのです。コンビニでプラスチックの袋がもらえなくなり、エコバッグを使いましょうみたいなことですか、ゴミはちゃんと分別しましょう、みたいなことがありますよね。それってみんな煩わしいと最初思うじゃないですか。何でも捨てられる方が楽です。でも、そうすると持続可能な地球になっていかないからということで、結局自己変革が求められる。ちょっとした煩わしさとか痛みを伴う自己変革を求められる。でも、その自己変革というのは、外から言われてもなかなかしづらいものです。SDGs と聞いても、最近教科書などにも載るようになりましたし、そうすると余計に勉強というか、なんか難しいというか、ちょっと固いこと言われているみたいな感じになることもあるかもしれないかなと思います。

図書館で SDGs の図書展示とかやっていると、例えば「いろんなところで目に触れる SDGs って結局なんだろう、概要を知ろう」と本を借りる人もいられるかもしれませんし、昨日お伝えしたように自分の何か目的のために、例えば自分が高血圧だから医学の本を借りに来たとか、防災の本を借りに来たときに書架のところに SDGs の各目標のアイコンが貼ってあったら、こんなところにも SDGs、これも SDGs なのかという気づきがあるかもしれません。

自分を変えられるのは自分だけだと思います。読書ってすぐ自分一人の内面的な、個人的で能動的な行為で、だからこそ自己の変革に一番寄与できる場所でもあるのかなと思います。そういうところが、図書館が SDGs 推進に貢献できるということに繋がるかなと思ってやっています。

**青柳氏** ありがとうございます。続いて上杉さん  
お願いできますか？

**上杉氏** 大阪市さんのお話で、昨日もおっしゃっていたと思いますが、図書館でこれまでやってきたことを SDGs という視点で捉え直す、新しいことをするのではなく、見える化する。それってすぐできることですよね。絵本にしても、昨日朝日さんが紹介されたように、エコバッグを使っている場面が描かれているのに気づくとか、ちょっとしたヒントがあると、絵本の見方も変わる。図書館の取り組みでも同じだろうと昨日のおふたりの話を聞いていて思いました。

それと、職員体制のことを補足させてください。

真庭市には 7 館の図書館があり、中央館にはそれぞれ職員がいますが、地区館は、任期付職員の司書が一人と、その職員の休憩時間を埋めるためとか、お休みするために短時間の方が入ってくださるという環境です。こういう職員体制では、図書館だけではできないことが多いので、色々な市民の方に手伝っていただく。この時にボランティアとして関わっていただくことはもちろんあるのですが、そればかりだと、継続していくことが難しいので、事業としてお願いする予算を確保しています。真庭には移住してきて個人で起業されている方も多いため、そういう方達に仕事として発注することもあります。私が今日着ているポロシャツは地元のアパレルブランドのもので、若い人にもっと真庭のことを知ってもらうために市外局番をロゴに使うってストリートファッションを作り、発信をしているブランドです。ここと一緒に図書館のイメージにあわせたマークが入った缶バッチを作って図書館イベントの景品にしたり、職員用のポロシャツを作ったりしました。このように図書館の事業をする中で微力ながら地域経済を回していくようなことも考えています。

**青柳氏** 移住されている方々のお力を借り、参加していただく。つまり協働で街づくりをされている。

そのために、予算確保しているということですね。大変、特徴的な取り組みをされていると感じました。ありがとうございます。続いて朝日さんお願いできますか？

**朝日氏** 昨日二冊読み聞かせをさせていただいて、実はもうちょっと喋ってもよかったですのですが、時間を間違ひまして、お話できなかった部分が少しあるので、その辺りから話したいと思います。

最初に読んだ本をもう一度説明すると、『わたしがわかるみらいもわかる SDGs はじめのいっぽ』は汐文社という出版社から出ています。はだしのゲンを出版している出版社です。こちらの本の作者は原琴乃さん。この方は現役の外務省職員の方で、子供の頃に絵本を作ったことがあって、絵本がすごく好きでものごとを学ぶのに有効だということとずっと思っていたそうで、SDGs 推進課みたいなところに関わったことをきっかけに、この本を出そうと思ってお作りになったそうです。この本を出された当時は海外にお住まいで、時差がある中 Zoomでお話し、説明を受けて使わせていただくようになりました。読み聞かせを聞いていただいたように、小さい子ども向けに書かれた絵本なので、中学生高校生にも、もちろん大人にも読むのですけれど、中学生高校生に読む場合は、小さい子向けに作った本であることは一応伝えます。そうでないとなんか小さい子の本だなと思って聞いてもらえないかもしれないからです。ただこの絵本が分かれば、いろいろな理解の仕方や想像の仕方ができると考えてほしいからです。

もう一冊読んだ絵本は、おむすび舎という出版社の「いのちのたべもの」という本です。この二冊を読ませていただくという形で、大体基礎講座をしているのですけれど、この2冊より以前に『もったいないばあさん』という絵本が出版されています。皆さんご存知だと思いますが、SDGs というよりも、もっ

たないという日本文化に関わるところで紹介してくださった作品です。作者の真珠まりさんにインタビューなどをさせていただくと、この絵本で17ゴールを網羅しているわけではないけれど、きっかけとして、SDGs がわからない子供たち、幼稚園、保育園の子供たちも大好きで読んでくれている作品であることを感じます。「もったいないばあさん音頭」というものもあるので、そういうものから入っていただき、周りにいる本と日常生活をつなげてくださる人が、SDGs の話をしてくれればいいのではないかなと思いました。あと、先ほど話しましたが、17ゴールのうち、自分たちはどこに興味があるのか、またはどこならば自分の地域で推進できるかというところを考えていただくと、何かしら一歩を踏み出せるのではないかなということ伝えて昨日は終わろうと思ったのですが、伝えられませんでした。

後は、『絵本で学ぶ SDGs』という本を作りましたが、こちらの本の補足としては、これは実は持ち込み企画でして、平凡社の方にメールを出してアタックをしてプレゼンをして作った本になります。なので、別冊太陽シリーズがSDGsに関わる本を作ろうと思ったわけではなくて、どうしてもこの別冊太陽で出している絵本のシリーズがとても好きだったので、全部、表紙もそうですし、中身もカラーで綺麗に撮っていただけるといことで、こちらからお願いをして話を聞いていただいていたところ出版したものになります。絵本でSDGs推進協会編となっておりますが、企画立案が当会となります。編集の方のお力添えもあり、素敵な本になったと思っています。これが去年の夏に出ています。一年半経ってしまうと、もうすでにその間に新刊の絵本や読み物も出ているので、第二弾を出したいなと思っています。これをもとに、図書館にある本でもSDGsコーナーを設置できると、図書館の方にも言っております。この本には019という分類番号がついていますが、もし可能であれば、SDGs とか

子供の本のところにも置いていただいたりすると、これを見ながら児童サービスの方とお話ができたりするのかなと思うので、そのように使っていただければと思っております。

**青柳氏** ありがとうございます。持ち込み企画で実現したものなのですね。改訂版が出ることを期待したいと思います。ご登壇いただきました三名の方から、それぞれ補足やご意見等をいただきました。

さて、ここからは、昨日ご参加いただきました皆さんから寄せられた質問やご意見を基に、協議を進めてまいります。

私を含めて4名に対して、それぞれコメントやご質問を寄せていただきました。登壇者ごとにいただいた質問等をこちらで簡単に要約させていただいて、それについて登壇者から答えや、コメントをいただく形で進めてまいります。

まず私の話についてから始めさせていただきます。「SDGsへの貢献につながる計画企画の立案に関わっていくことが望まれるとのことでした。しかし、国外の取り組みをそのまま適用し実践することは難しいという言及がありました。図書館がSDGsへの貢献につながる計画企画の立案にどのように関わっていったらよいのか、もう少し考えを聞かせてください。」という質問をいただきました。皆さんがお勤めの図書館の事情が異なると思われるので、一口にお話することはなかなか難しいと感じたのですが、自治体によっては、SDGs未来都市や、自治体SDGsモデル事業に選定されているところもあるかと思えます。そういった自治体では、SDGs未来都市計画という文書を必ず作っていると思いますので、この計画の中で図書館として、どのように関わっていくことができるのかを考えて、実際の図書館における活動や計画に、結びつけていくことも一つの方法ではないかと思えます。あとは、登

壇者の皆さんからもお話がありましたが、普段されているお仕事、諸々のサービス、例えば課題解決支援サービスも一つであろうと思いますが、そういったお仕事を見える化して、SDGsへの取り組みにつなげていくことも大変重要ではないか。そうすることで取り組みやすくなるのではないかという気もいたしました。

別の方からは、「オーストラリアの取り組みに関しては継続的なものなのでしょうか？あるいは2017年のみなのでしょうか。」というご質問をいただきました。昨日、ウェブサイトの内容を引用してお話させていただきましたが、その限りにおいては、終了年の記載はなかったので、恐らく単年のみではないだろうと思われれます。しかし、現在までずっと継続されているかは未確認なので断言はできません。同じ方から続けて、「図書館は宣伝とコーディネートをするという説明がありましたが、コーディネートというのはどういうことですか？」というご質問をいただいております。昨日、お話ししたオーストラリアの事例についてです。もう少し具体的にお話すると、図書館でインターネット等を使って健康情報などを入手したいと思う高齢者の方々と、そういったネット検索ができるスキルを持つ若者とを図書館の方でマッチングして、若者から高齢者へ、そのスキルを移転するようなイメージですね。そういう状況をコーディネートと捉えています。仲介役を図書館がするという事です。

次の質問に移ります。「SDGsの推進に際して公共図書館が市民との協働で企画や実践をするために、どのようなアプローチが考えられるでしょうか。例えば図書館友の会やお話ボランティアなどの協働も考えられますでしょうか。」ということです。確かに図書館友の会によるお話し会などの開催は、SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」につながられるのではないかと思います。他にも、市民の人たちが図書館を支えるという視点からも、

SDGs への取り組みを検討できます。参画・協働の考え方を SDGs に取り入れることも、大変有効であると考えます。

関連して、別の方から「他者との連携により、図書館の持つ資源をどのように生かすことができるのかを開発することが重要になるのではないかと感じます。」というコメントをいただきました。確かにご指摘の通りだと思います。地域の人たちとの関わりを大切にしながら SDGs の取り組みを進める。先ほど上杉さんから、移住者の方々とともに図書館活動をするというお話がありましたが、そちらにもつながってくるのではないかと感じました。

次は「日本では予算も人も少ない中で、図書館で SDGs に関する事業を新しく始めることは難しいように感じます。図書館員としては図書館と SDGs の関係が強いこと、図書館が SDGs に貢献できることは理解できますが、外部の人に図書館で SDGs に関する事業を行う必然性を説明するには、どうしたらよいでしょうか？」というご質問です。図書館のサービスや事業と SDGs の目標を直接結びつけることは、なかなか難しいと思います。先ほど触れた「目標 4 教育」ですね。強いて言えば、この目標が一番、結びつきが強いと思いますが、それ以外の目標を図書館における活動と直接結びつけるのは、厳しいところもあります。繰り返になりますが、自治体の取り組みの中でどのように図書館が関わられるのかという視点から考えていった方がいいのではないのでしょうか。その場合、必ずしも図書館の活動が SDGs への貢献につながらないかもしれません。また、普段の活動の中で、SDGs との結びつきが直接利用者や地域の人たちに伝わらない可能性もあります。そうした場合は少し説明で補うとか、あるいは、地域の人たちを巻き込むことによって、理解を浸透させることで進めていくのがいいのではないかと考えます。

私への質問は他にもいただいているのですが、

時間の都合もありますので、先に進めてまいります。

では、上田さんに対していただいたご質問を紹介しますのでコメントをいただければと思います。「ご紹介いただいた事例は、今まで図書館がやってきたことを SDGs の切り口で見える化したものということでしたが、今後もっと踏み込んで事業展開をする予定や計画はありますか？」とのことです。今回、研究協議を進めていく中で、今まで図書館がやってきたことを SDGs の切り口で見える化することは、一つのポイントになってくると思います。質問者の方も、この点を指摘されていますが、いかがでしょうか？

**上田氏** はい、ご質問ありがとうございます。もっと踏み込んで事業展開をする予定計画はありますでしょうか。ということですが、もっと多様なこと、他のこともするというより、地域図書館が 23 館ありますので、今やっていることをシステマチックにして誰でもできるように行き渡らせる、組織的にできるようにするという方向をしなければいけないところだと思います。例えば、事業の広報のところにアイコンを載せるとか、それをホームページにお知らせするときにも載せる話をさせていただきましたが、それはまだ全館に行き渡っているとは言えません。また、事業を実施したら報告を上げるのですが、そこに例えば SDGs のゴールの数字、これは目標何に貢献している事業です、みたいな感じでゴールの数字を入れる欄を作るとか、そのようにしたら全館でも割とやりやすくなるのかなと思っています。そういう感じで回せるようにすることをやっていきたいと思っています。

**青柳氏** ありがとうございます。続いてのご質問に移ります。「電子書籍についてですが、電子書籍の導入の概要、具体的にはいつどの程度のコンテンツ数から始めたのか、この辺りを教えてほしいで

す。」とのこと。電子書籍についてはコロナ禍で電子書籍を活用して、SDGs の目標と関連付けるという文脈でお話いただいたかと思いますが、そういった点も含めてご回答いただければと思いますが、いかがでしょうか？

**上田氏** 電子書籍の導入につきましては、知識創造型図書館を目指す上で必要な調査相談機能・情報提供サービスの高度化のためのレファレンスツールとして始めたのがきっかけで、2012年1月より導入しました。レファレンスツールとしての導入がきっかけですから、三社ぐらい比較した中で、最終的に EBSCO eBooks をご提供しております。こちらは公共図書館では当時あまり実績がなく、政令指定都市の図書館では入れているところはなかったのですが、大学図書館では実績があるところ。取り扱っているコンテンツは学術書や専門書が中心ですが、全文検索して必要なところだけピックアップして読むという、参考図書の使い方として使い勝手がいいということが、こちらを導入した理由の一点目。他に、資格試験のテキストや問題集は書き込みされたりすることもあり当館では収集対象外としておりますが、そういった図書資料では買わないものを、書き込みとかの心配がなくご提供できるという電子書籍ならではの有用性が、こちらを導入した理由の二点目。三点目は、コンテンツが買い切りで、サーバ管理費用などの固定費用がかからないということです。また、閲覧のための専門ソフトが必要なくて、PDFを閲覧できるソフトがあれば利用が可能であること。この4つの理由によって、EBSCO eBooks を選んで導入しています。4000点ぐらいから開始して、今は7000点余りのコンテンツがあります。

電子書籍については、他の方からも利用促進についてご質問をいただいていたように思いますが、それについては、当館のホームページを見ていただ

いたら、いろいろ載せています。講座や SNS での情報発信などはご想像がつくと思いますが、アクセスランキングの掲載もしております。これは年度ごとに、どの電子書籍が一番アクセスされたか、テーマ別、分野別のランキングです。例えば分野別アクセスランキングでは、資格取得ビジネススキル本のアクセスランキングですとか、ティーンズにおすすめ本のアクセスランキングというのもあります。EBSCO eBooks は学術書の固いイメージなのにティーンズ向けってなんだろう、と興味を引いていただいた方もいらっしゃるかなと思いますので、昨年度の「ティーンズにおすすめ」アクセスランキングを少しご紹介します。第1位は『小学生の英検五級合格トレーニングブック』、第2位が『面白植物図鑑漫画と写真でゆるーく楽しむ草花の魅力』です。よかったらホームページを見てみてください。

**青柳氏** ありがとうございます。近年、公立図書館も電子書籍の導入が、特にコロナ禍を機に進んでいるので、参考にさせていただいたのではと思います。昨日のご発表の中で SDGs に絡めて、17の目標ごとに電子書籍を一冊紹介しているというお話があったと思うのですが、どの目標に対してどの電子書籍を紐づけて紹介するかを考えるのは図書館の司書の方という認識でよろしいですか？

**上田氏** そうです。当館の担当者が考えたということです。

**青柳氏** わかりました。さっきお話が出ていた EBSCO さんが考えたものではないということですね。ありがとうございます。では続いて、別の方のご質問に移ります。

「SDGs 推進に際して、市民との協働の必要性は感じられるでしょうか。大阪市は、大都市で



すので、市民との距離が遠いイメージがあります。17の目標のうち市民と連携することで効果が出る取り組みもあるのではないかと想像しています。」とのことですが、具体的に市民との協働をSDGsの文脈で捉えると、どういうことが考えられるのかを教えてくださいませんか？

**上田氏** このご質問の中で「大阪市立図書館でやっているまちのこしカード」と書いてくださっているのは思い出のこし事業のことだと思いますが、思い出のこしというのは、市民の方から寄せられた思い出、例えば「今は埋め立てられたけれどもあそこには昔池があって、よくそこで遊んでいたんだよ」とか、「昔こういうお祭りがここであったんだよ」みたいな思い出を図書館に投稿してもらって、それについて図書館がいろいろ資料を使って調べて、補足情報等を追記して図書館内等で公開するということです。こちらは市民協働と言うよりは、市民の方の思い出に図書館資料を使って補足し、新たな地域資料を生み出していくという取り組みです。それで言ったらいろんなことがありますよね、図書館の取り組みに市民の方が参加して下さって一緒にやっていくというのも。ボランティア活動はどのようなのでしょうか。あと読書会とかもそうですし、読書会の中で、それぞれがご自分のおすすめの本を紹介しあったりというような活動もありますし。大都市は市民との距離が遠いと思われる気持ちはわからなくもないですけど、私は市民との協働という点においては自治体規模の大小はあんまり関係ないかなと思います。大阪市の地域図書館ですと、本当に小さい町の図書館という感じですし、顔見知りの常連の方もいらっしゃるって、全然遠くない感じでやっています。市民の方のお力を借りるということは、昔よりも増えていますよね。それはいろんなところで感じておまして、また取り組みを考えていきたいと思います。

**青柳氏** 普段されているサービスとのつながりもあるでしょうから、ことSDGsということで切り分けて考えることが少々難しいかもしれませんが、上杉さんがお勤めの図書館でも何か言及できることがありますか？

**上杉氏** 中央図書館を作る時に市民ワークショップを行いました。当時、瀬戸内市民図書館の館長でいらした嶋田学さんに来ていただいて、市民と協働で図書館をつくっていくことについてお話いただき、その後で、新しくできる中央図書館でやりたいことを話し合いました。その中から図書館サポーターズという集まりができ、毎月、図書館と一緒に映画会をしています。この予算は地方創生推進交付金を活用しており、上映前には国連広報局が2015年制作した「持続可能は開発とは」という映像を必ず流します。そんな感じでしょうか。

**青柳氏** ありがとうございます。視点は異なるかもしれませんが、絵本でSDGs推進協会からのお立場で、今のご質問に対して朝日さんから何かありますか？

**朝日氏** 今聞いておまして、お二方の昨日の発表も、まさに映画がそうだなと思っていました。今はうちの糸魚川市も映画館がないので映画を見るのが大変だったりします。大きな町の図書館や県立図書館で古い映画をやっているのをポスターで見るとうらやましいなあと思っているの、そういうのがSDGsにつながるかな。環境とか平和とかそういうところじゃなくて、なんか身近な幸せとか、懐かしいなって思って、その時の話を誰かにしてもらって、あの時はこうだったってところから、ちょっとあんなことしてみようかなという方が増えてもいいのかなと思います。今、壇上からですが、それは

ゴールで言うと何番的なものになっているのか教えてもらいたいと思いながら聞いておりました。

**上杉氏** 映画ですか？映画の内容によって色々なゴールがあてはまるかなと思います。

**朝日氏** 映画の内容によってゴールをですか？

**上杉氏** そうです。なので、上映を告知するポスターには、映画の内容にあてはまるゴールのマークを入れます。

**朝日氏** 映画の上映自体がSDGsのゴールにというのは何かあるのかなと思って。

**上杉氏** それは、意識したことがなかったですね。

**朝日氏** でも、何番になると思いますか？

**上杉氏** 「住み続けられる街づくり」かな。

**朝日氏** さすがその視点はありませんでした。

**上杉氏** まちに映画館がなかったので、文化的なことも充実すると「住み続けたいな」と思ってもらえるかなと。

**朝日氏** 女性支援的な伝記映画みたいなのあるじゃないですか。そうすると、ジェンダーの問題かもしれないし、子供向きの映画をやった時になんか発信できるものもあるかなと思うと子供の映画でもSDGsになるのではと思いました。

**上田氏** 「住み続けられるまちづくりを」には確かになりそうですよね。

**青柳氏** ありがとうございます。では次に進めさせていただきます。上杉さんへのご質問に移ります。「中央図書館が主体の事例発表でしたが、分館を含めた事業展開はされていますか。」ということですが、いかがでしょうか？

**上杉氏** 分館、真庭市では地区館と呼んでいますが、ここは複合施設に入っているの、複合施設の公民館の方たちと一緒に事業をしたり、図書館の常連さんに講師になってもらって講座をしたり、全館共通で時期を合わせて同じイベントをしたりしています。大阪市さんが、取り組みを標準化すれば、誰でもできるようになって分館でもできるという話をされましたが、そういうことも試みています。

**青柳氏** 分館の場合、複合施設が多いというお話があり、次の質問とも関係してくるのですが、分館ですと、やはりいろいろな方々との協力や連携が生じてくると思うのですが、こちらの方からは、「様々な取り組みをされていましたが新たな企画を立ち上げる時、地元と連携する上でよくつながる団体、主として協力している団体などはありますか。」ということですが、この点についてはいかがでしょうか？

**上杉氏** 中央図書館のサポーターズの方々や、移住して来られた方々、地元の方も、イラストレーター、デザイナー、ライター、カフェ、音楽・映像関係などいろんな活動されている方がいらっやるので、そうした人たちとつながって、事業をしているところですよ。

**青柳氏** ありがとうございます。もう一人の方の質問です。「図書館の仕事には、いわゆるルーティンワークとして、いろいろな業務がある中で、このような素敵な行事、イベント企画を実施できる時間

やマンパワーはどのように捻出しているのでしょうか。」とのことですが、何か工夫している点等があればお話しいただけますか？

**上杉氏** 皆さんの図書館に比べて、利用が少ないのです。貸出冊数も少ない。真庭市の年間貸出冊数は21万冊とかです。予約資料の取置棚も、皆さんの図書館だと何列も何列もあるのではないのでしょうか。真庭市では中央図書館であっても予約資料を置いている棚って、ちょっとだけなので日々の仕事に忙殺される感じではないのです。イベントをする時には、職員みんなに担当してもらって、起案を作って、プレスリリース出してっていうのを誰でもできるようになって、一人で企画が立てられるように、と始めたところですよ。

**青柳氏** ありがとうございます。上田さんのところではいかがですかね？自治体や図書館の規模によって違うと思うのですが、ルーティンワーク+αのお仕事として、SDGsに取り込むにあたって何か時間やマンパワーの点で工夫されていることがあれば、教えていただけますか？

**上田氏** 中央図書館と地域図書館では、休館日も、大阪市立図書館でどこかは開館しているように合わさないよう設定しているのですが、月に一日は全館で休館して、その日に集まって研修や会議をして、各館の事例や取り組みを共有しています。コロナ禍以降はオンラインでも研修を受けられるようにしており、各館がそれぞれ行っている事業や様々な取り組み事例を共有することで、他の図書館でも「やってみよう」とハードルを下げて応用できるようになっていきます。それが大規模館であるが故のメリットを活かせる点ではないかと思えます。

**朝日氏** ぜひお忙しい館はこの本を参考にして

いただいて17冊選んでいただければと思います。17冊展示から始めていただき、もう少し余裕があって2セット作ってもらえれば、分館で回すこともできます。一気に17ゴールじゃなくて、今日は二つとか三つとか、何分割かして一セット二セット作ってもらえれば、ぐるぐる回せて、そこから自館のものや地域のもので、やっぱりその地域の作者さんとか、絵本作家さんとかの作品を展示していただくなど、時間がなくてもできることもあると思います。そうするとSDGsに興味のない人も見てくれることがあるのではないかなと思います。コロナの前に考えたのは銀行の待合室でこの展示をしてほしいというのをお願いしたのですが、コロナになって銀行の待合室の雑誌がなくなってしまったということもありました。このような展示を図書館の本館や中央館で一回やってみて、みんなに見てもらって、次からは分館に回しますというのをすると、時間がなくてもできるのではないかなと思います。すぐできるSDGsということで、ぜひ宜しくお願いします。

**上田氏** ご紹介いただいた『絵本で学ぶSDGs』は、出版された途端にみんな「わあっ！」って思って、図書館で購入して使わせていただいています。この本の中で紹介されている絵本と、自分の館で所蔵しているものから選んだ絵本を足して、毎月取り上げるゴールを替えて絵本展示をしている館もあります。今回朝日さんが来られるので、私の事例発表では言わなかったんですけど、十分活用させていただいております。ありがとうございます。

**青柳氏** ありがとうございます。今ご紹介いただいた本は蔵書の構築にも活用できそうですね。

それでは朝日さんへのご質問に移らせていただきます。「SDGsに取り組もうと思ったきっかけなどがありましたら教えてください。」ということですが、いかがでしょうか？

**朝日氏** 会場の後方に置いて頂いた、以前、寄稿した関連雑誌に書かせていただいたのですが、学校司書になった後、絵本専門士という資格を取った後に、糸魚川市の学校司書として働くことになりました。絵本を使って子供たちと、世界を繋ぐということが何かできないか、または学校の授業と絵本をつなげられたらいいなと思っていました。そんな時、勤務校で購読している小学生向けの新聞で、早くから SDGs という記事が載っているのを目にしていました。ただ読んだときは非常に難しく、それは寄稿文にも書いたのですが、水を子どもたちが汲みに行く地域を紹介する記事で、水道もトイレもある子供たちにはその実感がないわけですよ。そんなところから、「しずくのぼうけん」というロングセラーが思いつき、読み聞かせをしたら「水ってこんな風に私たちのもとに来るまでにたくさんの自然の恵みを受けている」とわかってもらえると思ったのでした。それで、それをどうにかして形にできないかというのをずっと自分だけで考えていました。

最初にこの会を作る前にやったことは日本人の作者で 17 冊。外国人の和訳絵本で 17 冊選んでセットを組んでプレゼンして回りました。これをやりたい、やりたいと。海外の絵本を取り入れることで、日本的な観点だけではなくて、いろいろな文化も入ってくると思いました。貧困の部分に関しての日本の絵本はあまりありませんでした。悲しくなってしまう絵本が多かったのです。そうすると海外のものがいいのではないかと思いました。そんなことから始めました。学校図書館は予算が少なくて、あまり新しく絵本を買えなかったのも、既にあるもので、17ゴールを組めないかというところが始まりでした。その後リストだけが欲しいと依頼があり、ちゃんと会を立ち上げて発信できるものがあつたらいいと思いました。またご依頼いただいたら、ボランティアではなくてきちんと責任を持って紹介し、取り組

みをお手伝いできないかなということで、絵本専門士の資格を活かしてこの会を始めた。というのがきっかけですね。

**青柳氏** ありがとうございます。会場の皆さんからのご質問等は、まだまだありますが、終わりの時間が、そろそろ近づいてまいりましたので、本日の協議のまとめをしていきたいと思えます。

上田さん、上杉さん、朝日さんからのご発表は図書館が SDGs への取り組みにどのように貢献できるのかを考えるにあたって、大変示唆に富む具体的な事例であったと思えます。ご参加いただいた皆さんが勤務されている図書館で、実践されているであろう課題解決支援サービスやこれに関わるサービス等を SDGs の 17 の目標の達成に沿うような形で再構築する。先ほど、見える化するというお話もありましたが、そのようにしていくことで、SDGs への貢献に取り組みやすくなるのではないかと思います。そのためヒントが、お三方の発表に含まれていると感じました。私の発表からは、実際どのように取り組むのかということ考えると、難しいところもあるのですが、SDGs への取り組みに対する評価をどのように行うのかということも、今後、検討していく必要が出てくると思われます。そういった際に、昨日のお話を参考にしてもらえれば幸いです。昨日と今日、2 日間にわたる研究集会は皆さん方にとっていかがでしたでしょうか。今回の研究集会で得られた学び、あるいは気づきを皆さんの職場に持ち帰っていただき、そして共有することで今後の図書館での活動やサービスにつなげていただけることを期待しまして、この場を締めさせていただきます。ありがとうございました。

## 情勢報告

公益社団法人日本図書館協会  
理事長 植松 貞夫 氏

最初に昨日からの研究集会にご参加の皆様  
の熱意に心から敬意を表したいと思います。また、  
この全国公共図書館研究集会兼近畿公共図  
書館協議会研究集会及び和歌山県公共図  
書館協会研修会の開催にあたり、多大なるご尽力  
をいただきました歌館長をはじめ、和歌山県立図  
書館、和歌山県教育委員会の皆様に感謝を申  
上げたいと思います。ありがとうございました。そ  
れでは、与えられた時間で日本図書館協会の活  
動を中心に昨今の動きなどを報告させていただきます。  
ご存知のように、日本図書館協会では、公  
共図書館部会など 6 つの部会と図書館の自由  
委員会など 27 の委員会がございます。それぞれ  
が活発に活動を展開しておりますので、本日の  
ご報告はそのごく一部であります。

また初めにお断りいたしますが、本日画面上で  
ご覧いただく内容は来週の全国図書館大会でも  
使用しますので、来年早々にまとめられます全国  
図書館大会の記録に掲載いたします。細かな数  
字等はそちらでご確認いただきたいと思います。

### 日本図書館協会の主な動き

6 月 15 日の代議員総会におきまして、業務  
執行権を有する理事が選任され、同日の理事  
会において役割分担を決定しました。新しく 3 名  
の方に理事としてお入りいただきました。

2020 年 3 月以来、図書館の活動に大きな  
制約を与えてきました新型コロナウイルス感染症  
ですが、今年 5 月に感染症法上の位置付けが  
変更されたことにより、強制的な行動制限等が解  
除されました。それに伴い、多くの図書館で参考



にしていただきました本協会のガイドラインは 5 月  
8 日をもって廃止となりました。図書館員等の研  
修につきましても、本日のように対面式に戻りつ  
つあります。対面式の方が良いというところもあ  
りますが、一方でオンラインの方が良いという意見  
も多く、その都度、状況を勘案してということに  
なろうかと思っております。

協会の財務状況であります。会員の減少と  
諸物価の値上がり等によりまして 2017 年度以  
来 5 年ぶりの赤字決算となってしまいました。公  
益社団法人でありますので大きな利益を上げて  
はいけないではありますが、財務状況の安定あ  
ってこそその公益事業との考えのもと、来年度中  
に今後 10 年を見据えた中長期計画を策定するこ  
ととしております。

第 13 期の日本図書館協会認定司書につい  
てです。10 年間認定司書として活動され、更新  
されようという方が 7 名、新規で 9 名の方が 2 月  
の理事会で承認され、3 月 31 日から 10 年間と  
いうことで認定されました。この 3 年間実施でき  
ておりませんでした認定司書の方への認定証の交  
付式を 9 月 18 日に対面とオンラインとの併用で  
実施し、その後の交流会では認定司書の方から  
現状や改善点等につき意見をいただきました。協  
会としては、認定司書の方により幅広く活躍い  
ただける舞台を提供することを目指して行きたい  
と思っております。全国図書館大会でも議論いた  
だくこととしております。

図書館で働く非正規職員の処遇改善への働  
きかけについて、まず正規職員ですが、2001 年

から 2022 年間で減り続けております。非常勤、臨時の方たちがその分を補っています。委託派遣の方については 2005 年から統計を取っているのですが、増えております。図書館の数は 1.2 倍になっているにもかかわらず、正規の職員は 30%減少する一方、非常勤、臨時の方々は 1.6 倍、そして委託派遣の方々はこの 2005 年から 6 倍に増えています。（途中から）臨時の方が減っているのは、この年度辺りから会計年度任用職員制度が始まり、切り替わっているというものであります。2008 年から 15 年間の構成比の変化を見ますと、正規の方が 38%であったのが 22%に減少しているという状況です。非正規の方々は、長期間の雇用が保障されない、給与水準が低いということがあります。会計年度任用職員は文字通り年度ごとの雇用です。これらのことから、都道府県知事、政令指定都市を含む市長、東京都特別区の区長宛に図書館非正規職員の処遇についてのお願いを文書として発出するとともに、文部科学省の記者会見室におきまして記者会見を開きマスコミの方にこの問題を認識してもらいました。その後、いくつかの記事として取り上げられ、反響もありました。ただこの問題は図書館だけに限られたものではなく、公務員制度そのものに関わることであり、自治体の財政逼迫という状況は今後厳しさを増すことが予想されますことから、解決が非常に難しい問題です。全国図書館大会で議論を続けることにしておりますし、図書館の非正規雇用改善のための連絡会を、日本図書館協会が呼びかけて、先日、第 1 回を開いたところですが、このようにして地道に働きかけを続けてまいります。一方で、報道によりますと、人手不足により、一部自治体では非正規職員の処遇改善の動きは出てきているようです。これが図書館の職場にどのようになりますか注視していきます。

### 書店の減少に伴う課題について

皆様、実感されておられますように、全国的に

街の本屋さんの廃業が進んでおります。東京都の書店数の推移では、1984 年のピークの時に都内に 1426 店あったそうですが、2020 年現在の店舗数は 287 店舗ということで、全体として 8 割減って 2 割になっています。書店 0 の自治体というのが 456 で全国の自治体の 26%だそうです。沖縄では半数以上、長野で 50%、奈良 51.3%といったところであります。図書館がない自治体と合わせてみますと、図書館がない自治体は、市はあと 8 つしかないのですが、そこには書店があります。書店も図書館もないのは町村だけで、247 町村あります。926 自治体のうちの 247 ということで、26.7%になります。こちらの方が我々としては問題だと考えております。

このような事態から自民党の議員による「街の本屋さんを元気にして日本の文化を守る議員連盟」では、昨年末に中間取りまとめを、本年 4 月末に第 1 次提言を公表し、関係省庁等に書店の廃業に関係しそうな事柄について検討を指示しております。例えば経済産業省では Amazon の問題等です。文部科学省には、図書館に関わることとして、特にこの 2 つがあります。ベストセラーの小説本に関し図書館が複本を多数揃え貸し出していることが売上に影響している。それから図書館が地元図書館からの資料購入に際し、入札で過剰な値引きを強いているというものであります。最近では装備費用を含めて地元書店に負担が多すぎるとの主張も出ております。本協会としましては、この第 1 次提言の前に議連の幹部会に赴き、図書館の実情について説明し、一部理解を得られたかと思っていたのですが、第 1 提言では、全国の書店を保護する意識の強い内容となっております。この中で文部科学省が対応すべき事柄ということで、公共図書館と書店、両者合意の下で共存できるようなルール作りを検討するというところで、図書館関係者、書店関係者、文部科学省が参画する対話の場を設置し、具体的な検討を

行い、より実態に見合った実効性のあるルール作りや優良事業の収集、普及、促進をすることとされております。その後、書店関係者、著者・出版関係団体、図書館関係団体、そして自治体、教育委員会の方々による対話の場を作ることができまして、10月3日と10月30日に2回行われました。10月3日の方はYouTubeで公開されていましたが、10月30日からはクローズの会でいたしております。これについては両者いろんな所で合意が取れないことがあり、先般の図書館総合展のフォーラムでこの議論を続け、さらに昨日の京都ブックサミット（11/8・11/9）でも同じようなメンバーで議論をいたしました。全国図書館大会の第11分科会でもさらに議論を続けることとしております。今のところ第2回から後の議論の中で、お互い誰が悪いと言っているかもしれない、この問題に関しては複本問題などで争っている場合ではない、このままでは十年後には紙の本を読む人は、一部の人になってしまう可能性があるということで、文字文化、あるいは活字文化のために何ができるかというのをお互いに考えようということになりました。これに関しては、日本図書館協会では1980年に図書館の倫理綱領を決議しております。この第12番で図書館は出版の自由などのことから、読者の立場に立って出版物の生産・流通の問題に積極的に対処する社会的役割と責任を持つということを掲げております。最終的に利用者の手元に図書や雑誌を届ける、地域の読書人を育てるといった共通の目的を持つ書店と図書館が共同でイベントを開催するなど、書店、出版社、ひいては活字文化を守るということに、皆さんの図書館でも配慮していただきたいと思っております。

#### **図書館関係地方交付税への要望について**

毎年行っていることではありますが、令和6年度の予算におきます図書館関係地方交付税についての要望についてではありますが、毎年8月1日に

来年度の予算編成期に関係省庁、あるいは関係する議員等にこれをお送りしているものでありまして、地方交付税における図書館費用の増額を求めるといった内容でございます。

#### **公共図書館の動向について**

図書施設の整備ということでは、昨年4月に石川県立図書館がオープンいたしました。その後10月に神奈川県立図書館がオープンいたしました。有名な建築家の前川國男さんが旧館を設計したのですが、それをリスペクトする建物になっております。コロナによる公共図書館の影響としては、電子書籍提供サービスの提供館が、急速に増えてまいりました。中でも、「デジとしよ信州」という県立長野図書館と77市町村によるサービスが昨年8月5日に開始されたというインパクトもあって、複数自治体での広域的な電子図書館の導入例が増加しております。読書のバリアフリーに関しては、障害者や読書困難者への本について出版社側の研究組織、普及組織でありますアクセシブルブックセンターが発足しております。日本図書館協会の障害者サービス委員会等では、このアクセシブルブックについてもっとこうしてほしいということを含まれているところであります。

#### **図書館等公衆送信サービスについて**

一昨年の著作権法の改正に基づき迫られました図書館等公衆送信サービスですが、本年の6月が施行日でしたが、国立国会図書館も含め、一例も実施館がございませんでした。なお、利用者から図書館が徴収した補償金を権利者に配分する一般社団法人図書館等公衆送信補償金管理協会、略称をSARLIBと言いますが、昨年11月に発足し1ページ最低額は500円とするような補償金規定や実施に際してのガイドラインは関係者間で合意されております。図書館協会では、ブックレット「図書館等公衆送信サービスを始めるために」という本をこの10月に刊行し

ました。ご利用いただければと思います。

### 公立図書館の状況について

図書館数ではありますが、昨年よりも合計で6館の減少となりました。これだけ見ると館数も縮小の時代となってきたと思われるかと思われませんが、施設配置の見直しとか、公共施設等総合管理計画など国の施策誘導による施設の統合化などが原因かと思っております。市立と町村立で合計10館が減りました。設置主体別に5年ごとの館数の推移を見てみますと、2002年と2007年の間に急速に町村が減っておりますが、ご承知の平成の大合併です。これを設置率で見ますと、市区立は、99%あと8市であります。町村の方は合わせますと56%ということですが、この辺から増加率の伸びが緩やかです。

続きまして貸出点数ですが、個人貸出の総数は6億5300万点。コロナ前の2019年よりも低い値となっております。貸出点数は、2010年度、一館あたり22万6千点の値をピークに下がってきておまして、コロナの影響で大幅に落ちました。全体として貸し出し点数は下がってきていると言っております。

次に図書館費と資料費ですが、図書館費につきましては、図書館に係るすべての費用です。ただし正規職員の人件費、給与等を含まないことになっているのですが、一館あたりが増えてきているという辺りは正しく分析できていないので参考までにということをお願いいたします。問題なのは、資料費の方でございまして、資料費については、前年度よりは少し増えているということですが、設置主体別の一館あたりの資料費の推移、これは年度当初の予算額ですが、都道府県立では5,700万円ぐらいから、4,400万円ということで、1,000万以上の減額になっておりますし、一番多い市区立も2002年から見ますと一館平均の資料費は34%減の866万円です。従いまして、先ほどの書店との問題でも、この866万円で地元書店か

ら全部買ったとしても、地元書店の利益は大したことがなくて、図書館が地元書店を買い支えることはできないということを協会としては主張しております。いずれにしてもこのように資料費が減り続けていることは、協会としては大きな問題として認識しております。そのため、年間図書購入冊数についても、下がり続けておまして、20年間で冊数として3割減となっております。職員数については先ほどお話しした通りです。

最後に指定管理者制度の導入状況であります。こちらは市区町村立の状況ですが、これは日本図書館協会の図書館政策企画委員会が前年調査してくださっているのですが、2021年12月が最新データであります。全体として申し上げますと、指定管理者制度の導入館導入自治体の数の増加傾向は鈍ってきていると見ているところであります。

### 最後に

ご参加の皆様少しショッキングなことも含めてお願い申し上げたいと思います。この10月13日に文部科学省が第21回21世紀出生時縦断調査というものを公表しました。これは2001年に生まれた1月生まれと7月生まれの各1万人を選び、その人たちが0歳、1歳と成長するに従って、どうふうに変わってきているかを毎年調査しているものです。本年10月に公表されたのが、今年の1月と7月に行った調査の結果です。この一ヶ月の間に読んだ書籍の数についてという問いを出しましたところ、紙の本、紙の雑誌・漫画、電子の本、電子の雑誌・漫画、これはいずれも0冊が最多であったとのこと。新聞でも、21歳の6割は本を読まないということで、記事になっております。文部科学省のこの調査は、ずっと行われておまして、この人たちが10歳の時は何も読まないというのは1割であったのが、6割になってしまったということになります。しかも、もう少しショッキングなことは、この調査対象者はどういう人たちかという、



大学生や専門学校生を含めまして、在学者が63.9%、すなわち、学生が64%であるにもかかわらず、もちろん教科書はカウントしていないことになっていますが、1冊も読まない、1冊の電子雑誌・漫画も見ないという人が6割近くいるという状況であります。

若い世代だけでなく、コロナワクチンの接種手続きなどで、私のような高齢の世代も、スマートフォンを使いこなすことが多くなりました。ある調査によりますと、新聞・雑誌の閲覧に使っている時間よりもスマートフォンを介してニュースサイトを閲覧している時間の方が長いということが明らかにされています。このスマートフォンの普及が幅広い世代にわたって活字離れ、読書離れを促進させています。このスマートフォンは、自分の体験や考えをSNSという形で不特定多数に容易に発信できますし、自分が見たいものを自分で探すことができるという情報受発信のセルフ化を実現しているものであります。これは我々人類が歴史上初めて手にした能力であります。この情報受発信のセルフ化の中で、図書館が介在するところが薄くなっているということが言えます。

そういうことで先ほど見ていただいた図書館の投入資源の縮小です。正規職員から非正規職員の置き換え、資料費の減額による図書購入冊数の減少、職員の日常的な資質向上が困難などという事柄と、モバイル端末を使ったインターネット利用の促進・普及によって図書館の利用者が減ってくる、あるいは図書館の存在感が人々の間で薄くなる。そうすると、社会的な支援、すなわち図書館に税金を投入しなくてもいいのではないかとというようなことに対して、そうだとする人が増えてしまう。このような悪循環が回ってしまうことが危惧されるというわけです。この悪循環に陥らないためには何をすべきかということです。これは皆さんに是非、それぞれの図書館で考えていただきたい事柄です。来館者を待つ図書館員から、枠から飛び出す図書

館員にということで、図書館ごとに利用者を新しく得ること。実際、図書館をヘビーユーザーとして使っている人が市民の何割いるのかということや、1割ぐらいではないかという意見もありました。これでは先ほどの社会的な支持を失ってしまいます。小説やエッセイに偏らず出版の多様性を支えているのは図書館だという自負と自覚のもとに選書をするということのようなことが求められますし、公共図書館をもっと地域にということで、他の組織、先ほどの真庭市でもありましたが、図書館員だけではなく、図書館の中にパートナーとして入ってもらう人を育成する。例えば、デンマークのオーフス市の図書館は、ライブラリーオブザイヤーを獲得した図書館であります。市の行政の他部局の方や、企業、そして個人団体などと協定を結んで、図書館の中で図書館の利用者を増やす活動、図書館の外で図書館の利用者を増やす活動を一緒にやってもらう。こういう図書館パートナー、ボランティアではなくて社会貢献として、社会に尽くしたいということを中心にした図書館パートナーを育成するようなことをしております。このように図書館へもっと多様な人々を巻き込むようなこと、地域に役に立つことで、税金は図書館に導入してもいいぞというふうにならなければいけないということです。

これからの図書館に求められる指向性ということで、簡単にまとめれば、他組織との予算獲得競争に勝てる図書館、存在感のある図書館、戦う図書館と書きましたが、既成の概念を破って枠から飛び出す。そんなこともやるのかということをやってみる図書館ですね。やってみてダメだったらまた反省して次のことをやればいい。先ほど申しましたように、このモバイル通信時代というのは、人類が初めて体験している状況でありますので、そこにおいて図書館がどうことができるか、どうことをすれば人々の生活の中に入り込むことができるのかということ、ぜひ皆さんで頑張ってください、その知見を共有し、次に役立てるということにしていきたい

と思います。

## アンケート集計結果

回答人数 76 人（紙で回答 70 人／web で回答 6 人）

### Q1 参加した日を教えてください

11月9、10日……41  
11月9日のみ……32  
11月10日のみ…… 3  
合計……76

### Q2 所属について

都道府県立図書館……15  
市区町村立図書館・図書室…53  
学校図書館・学校教職員……0  
大学図書館・大学教職員……1  
教育委員会・行政機関……4  
その他（出版社&日本図書館協会／企業／点字図書館）…3  
合計……76

### Q3 この研究集会をどこで知りましたか？

図書館雑誌……1  
JLA メールマガジン／ホームページ……12  
都道府県立図書館（または地域の図書館協会等）からの情報提供…46  
主催者からの連絡……13  
その他（職場の上司から 3 人／無回答 1 人）…4  
合計……76

### Q4 参加の動機を教えてください。（複数選択可）

テーマについて関心があったから……30  
業務の参考になりそうだから……52  
特定の講義・事例発表が聞きたかったから…7  
知人、関係者が登壇するから……2  
主催団体関係者として参加……22  
その他（次年度当番館のため／県の研修事業の一環として募集があったため／  
図書館での採用を希望しており業務への理解を深めるため／  
情報を持ち帰ればと思ったので／無回答 1 人）……5  
合計……122

**Q5 得るものが多かった発表等は何ですか？（複数選択可）**

基調講演「図書館はSDGsへの取り組みにどのような貢献ができるか」……………40
事例発表「SDGsと「知識創造型図書館」－大阪市立図書館の取り組み－」……52
事例発表「「真庭ライフスタイル」と図書館－真庭市立図書館の取り組み－」……59
事例発表「絵本でSDGs 絵本で世界とつながろう～絵本を使ってできること～」…35
研究協議……………18
情勢報告……………13
合計……………217

**Q7 今後の研究集会テーマとして関心のある事項があれば教えてください。**

- ・滞在型図書館についての評価指標
- ・海外の図書館状況
- ・図書館の自己評価手法
- ・資料保存
- ・MLA 連携
- ・多文化サービス
- ・市民や外部の組織との連携
- ・コミュニティ形成の場としての図書館
- ・都道府県立図書館のありかた
- ・図書館と地元書店の連携、取り組み
- ・地域との協働、地域情報資料の収集や発信について
- ・司書の人材育成について（中長期的に）
- ・不登校児童の増加について
- ・ビジネス支援、レファレンスサービス、地域おこし
- ・電子図書館について
- ・電子書籍とサービス
- ・DX
- ・アウトリーチサービス
- ・にぎわい創出
- ・バリアフリー関係
- ・YA サービス
- ・ビブリオバトルについて
- ・ユニシパリズム（地域主権主義）と公共図書館の使命
- ・読書バリアフリー法とサービス⇒このテーマについては図書館大会の分科会で取り上げたりしているが、それではサービス担当者が出席するだけで、全館的な浸透が弱い。研究集会等で取り上げるのも意識づけとして望ましいと思います。

- ・国立国会図書館サーチのリニューアルや送信サービス等の開始について、またポストコロナにおける図書館のDXとはなにか。
- ・人間にとって重要な「コモン」を市場化から守り、「自治」の力で「ケア」を基調に人々のウェルビーイングを高めているという役割を図書館はいかに果しうかを研究する。
- ・若者の読書離れ、電子図書館の普及に伴い、図書館に足を運んでくれる人が少なくなりつつある中、どのような手法、工夫で来ていただけるのか？またはそれぞれの図書館での取組を伺いたい。
- ・今回の事例発表においても、本の貸出以外の取組がとても魅力的でしたので、図書館で行った魅力的な取組をもっと知りたいと思いました。
- ・図書館で行うイベントについて、自館で行うイベントの参考にもしたいので全国の事例や今後計画している取り組みを知りたいです。
- ・図書資料の選書についても、各都道府県・地域における基準やこういった本が利用者から望まれている等のお話を聞きたいです。

#### **Q8 ご意見ご感想があればご記入ください。**

- ・とても勉強になりました。
- ・基調講演の中の国外オーストラリアの事例よりヒントをいただきました。自治体、地元の学校、図書館の連携をどうするのか、今後も考えていきたい。
- ・研究会ありがとうございます。今後もぜひ参加したいと思いますのでよろしくお願い致します。SDGsについて、とても勉強になりました。
- ・私達が普段の図書館で行う業務が、SDGsの内の数項目を達成する為の取り組みに繋がっていると知り、社会貢献ができているのだと嬉しく感じました。講演の中で話されていた取り組みの実例はどれも興味深いものですが、大石田町立図書館で実施された「本の福袋」の貸出テーマに「SDGs」を設定する取り組みは早速自館でも実践できる内容で参考にしたいと思いました。また、大阪市立図書館の“コロナの症状に関する情報のネット公開”も、コロナで不安な中利用者の方々の健康を維持する為の素晴らしい提案であると感じました。岡山県の真庭市立図書館では子育て世代の方が住みよい町となるよう設計された温かい室内設備があり、“見た目だけでなく、中身も同様に質が高い”という点に感動しました。自館にとっても大きなテーマにし、日々利用者の方々が過ごしやすい環境づくりをしていきたいです。
- ・絵本でSDGs推進協会の取り組みで、野菜スタンプでエコバック作りをされたとのことで、イベントで楽しみながらもSDGsについて考えるきっかけ作りを行うという2つの要素が含まれており、参考にしたいです。
- ・SDGsについて、そもそもSDGsとは何かや図書館がどのような形で貢献できるのかを学ぶことができました。また、他の市町村の図書館の取り組みも知ることができ、その中にはすぐに自分たちの業務にも取り入れることができそうなものもあり、とても参考になりました。
- ・これまでSDGsをかたくとらえていましたが、図書館の役割そのものがSDGsであることに気付きました。そこに職員が理解し、分かりやすくPRしていく必要があると感じました。それぞれの実情、取り組みの内容を知ることができ、大変有意義な研修でした。
- ・図書館の本（配架）を通して、自然とSDGsに興味関心を持ってもらうことの取組は効果的であると

感じました。特にイベントをする訳でもなく、気づいてもらう工夫が大事だと思います。

- ・SDGs 以外にも生活に関すること、コミュニティに関するものに、図書館の本を通してメッセージを伝えることができればよいと考えます。

- ・SDGs に関して図書館で何ができるのか、何も思いついていませんでした。今回の研究集会の講演や事例発表を聞いて、様々な分野の資料を扱う図書館であれば、すぐにチャレンジできることだと気づかされました。他の機関や施設、組織などと連携することから、チャレンジしてみたいと思います。

- ・SDGs の取り組みについて当館では裏テーマとして展示の際に意識して選書を行なっていましたが、表に出すことはあまり行なっていませんでした。今回の事例発表や取り組み方を学びながら普段携わっている業務がそのまま SDGs に直結していることが多いことを知り、「見える化」の必然性を感じました。また、県や自治体の未来都市計画を確認し、自館と関わりの深いところ、積極的に取り組むべき分野を見ることの重要さも学びました。これは図書館の役割を把握し、どうあるべきか、日々変わる情勢に対して図書館も柔軟な対応するために欠かせないことだと思います。SDGs について世間でも多くの団体や個人でも取り組む様子が報道されるようになりましたが、「ブーム」で終わることのないようにまさに“持続的に”取り組むことが今後求められるのではないかとも思いました。

- ・はじめての参加でしたが、図書館で実際行われている取組について聞くことができ良かったです。

- ・SDGs をもっと身近に、また継続的に取り組むヒントをたくさん得ることができました。ありがとうございました。

- ・今年度採用になり、このような研修は初めてでしたが、様々な図書館の事例が伺えて大変勉強になりました。ありがとうございました。

- ・SDGs について、17 のゴールについてはなんとなく把握しているつもりだったが、その下の具体的なターゲットや指標の存在はあまり理解しておらず勉強になりました。個人的には、より具体的なターゲットの方が SDGs の理解には分かりやすく感じたが、図書館で取り組むとなると、17 のゴールを自分や地域に引き寄せて解釈するほうがやりやすいのでしょうか。ただ、果たしてそれで国連の SDGs にかなっているのか、という点においては疑問を感じます（理解・取組へのきっかけづくりとしての役割はよいと思いますが）。

- ・絵本を、中高生や大人向けにも活用できることは、新たな気づきになりました。「子ども向け」「幼い子向け」と前提をすることで、より理解も深まるように感じ、自館のイベントでも活用してみたいと感じました。

- ・行政が SDGs に取り組むようになって数年経ちますが、いざ図書館が SDGs に取り組もうとすると「何を」「どこから」始めればよいかわかった。基調講演と事例発表 3 件を通し、当館で既におこなっていると気づかされたこと、当館でも取り組みが可能な事例があった。

- ・自分の町には公民館図書室しかなく、図書館の取組を知ることができ、図書館の必要性を感じました。公民館としても SDGs 図書コーナーをつくるなど、できることはたくさんあると感じました。真庭市の中央図書館をきっかけに東京から移住したという方がいるというお話が印象的でした。そう思ってもらえるような取組やまちづくりをしていきたいです

- ・有意義な時間でした。他の図書館の取り組みをしれることはもちろん、図書館業界の動向について知ることができ、今後の自館のうごきを考えていくうえで参考になりました。

- ・図書館で SDGs って何だろう？と思って参加しました。図書館はずっと SDGs の取組をしていた、見え

る化しただけのお言葉に、ハードルが下がりました。

- ・真庭らしい SDGs コーナーがおもしろかったです。地元の歴史・活動の中から選ぶ本は地域住民にも、自然に受け入れられやすいですね。図書館でラジオもおもしろかったです。パートナーシップにもつながりそうですね。校歌収集+歴史+文化の記録、すごいです。
- ・大切なもの、大好きなものを守るのが SDGs の入口は、心にすくと落ちる言葉でした。誰でもわかる絵本ではなく、SDGs と一見わからないがこういう視点で見れば SDGs につなげられる、「へえ」「なるほど」と思える絵本であれば、読み聞かせの意義もあったのではないのでしょうか。そういう面を期待していたので
- ・県立図書館の事例もあればよかったです。
- ・講演者、発表者や参加者のみなさんと交流できる時間があつたらよかつたと思います。直接質問できるなど…。(「夜の部」ではなく、研究集会の中で)
- ・SDGs が絶対的によいものとしてすべてのお話が進んでいくことに少し違和感がありました。SDGs に対しては賛否両論があると思うので、批判的な視点も必要だと思いました。
- ・会場の Wi-Fi の案内をしていただくなど、PC を使える環境が整っているとなおよかつたです。
- ・可能であれば、質問への回答を事例発表後、当日に行つてほしかつたです。
- ・会場がもう少し駅から近いとありがたいです。
- ・大変充実したご発表、研究協議でした。参加者名簿があるとありがたかつたです。

2023(令和5)年度 全国公共図書館研究集会

サービス部門 総合・経営部門報告書

令和6年3月発行

編集・発行 令和5年度全国公共図書館研究集会

サービス 総合・経営部門実行委員会

〒641-0051 和歌山県和歌山市西高松一丁目 7-38

和歌山県立図書館内